

九州共立大学

経済学部

令和 3 年度

カリキュラムマップ

經濟・經營学科 専門教育科目

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>経済学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の3)</p>				<p>経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適應できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。</p> <p>【経済・経営学科】 経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の担い手となる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【地域創造学科】 地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)</p>				<p>経済・経営学科は、総合的な教養、経済分野での多様な専門知識を身につけ、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを目指す。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)</p>				<p>経済・経営学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、6つの領域(生活経済、金融・会計、公共マネジメント、経営管理、スポーツビジネス、ビジネス実務)で求められる幅広い知識を修得する科目を配置する。 2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」、「演習科目」を中心に、ビジネス社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会人として必要とされる能力の可視化として、資格取得を目指す科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。</p> <p>【教育方法】 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。2. グループ学修においては、協働性・協調性を身につけ、課題解決能力や実践力が身につけられるよう指導する。3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。</p> <p>【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。</p>				
<p>経済学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学および経営学2領域の学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域および国際社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	職業人入門	1年生	前	この講義では、九州共立大学に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。我が国の経済や組織の経営で現実に行き始めていることを知り、興味を持ってもらうことから始めます。そのため、経済学部教員のみならず、外部の専門家をゲストに迎え、より身近な話題を提供します。	1 経済や経営の動きに興味を持つことができる。2 経済や経営の動きへの興味を深めることができる。3 経済や経営の動きを理解するために、今後、どんな理論を学んでいくのか理解できる。	◎	○	○
コア科目群	職業人入門(再)	2年生	前	この講義では、九州共立大学経済学部に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とする。我が国の経済や組織の経営で現実に行き始めていることを知り、興味を持ってもらうことから始める。各方面の職業人の仕事に学ぶ意味で、幾人かの先人の事例を取り上げる。また、教員のこれまでの業務経験も踏まえて様々な事例を用いて解説する。	・経済や経営の動きに興味を持つことができる。・経済や経営の動きへの興味を深めることができる。・経済や経営の動きを理解するために、何を、どのように学ぶか考えることができる。	◎	○	○
コア科目群	職業人入門(留)	1年生	前	この講義では、九州共立大学に在籍する4年間に「何を、どのように学び、どんな成果を得るのか」を知り、職業人(ビジネスパーソン)としての意識を涵養することを目標とします。我が国の経済や組織の経営で現実に行き始めていることを知り、興味を持ってもらうことから始めます。そのため、経済学部教員のみならず、外部の専門家をゲストに迎え、より身近な話題を提供します。	1 経済や経営の動きに興味を持つことができる。2 経済や経営の動きへの興味を深めることができる。3 経済や経営の動きを理解するために、今後、どんな理論を学んでいくのか理解できる。	◎	○	○

コア科目群	経済学概論	1年生	前・後	経済学は難しいと、学生からも社会人からもいわれている。これは経済学特有の言葉に慣れ親しんでいないことが大きな理由である。したがって、経済学を学ぶためには、経済学特有の言葉に慣れ親しむことが望ましい。経済学概論は、経済学特有の言葉に慣れ親しむことを目標として、講義を行なう。ミクロ経済学入門などでも、経済学特有の言葉を紹介するが、ミクロ経済学入門などよりも、より現実の経済に則した題材を基にして紹介していく。	・経済の動きに十分な関心を持つようになる。・経済学特有の言葉を用いることができるようになる。・経済現象の理解ができるようになる。	◎	○	○
コア科目群	経済学概論(再)	2-4年生	前	本講義では、経済学の基本的な概念や基本的な語句を学ぶ。例えば、「需要」と「需要量」は相違する概念であり、違った意味内容であることなどを説明する。基本的な概念や基本的な語句は、英語の単語と同様に、覚えなければいけないものであることを強調し、講義を行なっていく。また、計算を苦手とする学生は、乗数効果の説明に際しては計算を行なうので、そのことに留意して欲しい。	・社会経済現象に対して関心を持つようになる。・自分の考えを経済学の言葉で説明できるようになる。	○	◎	
コア科目群	経済学概論(留)(再)	2-3年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■本講義では、経済学の基本的な概念や基本的な語句を学ぶ。例えば、「需要」と「需要量」は相違する概念であり、違った意味内容であることなどを説明する。基本的な概念や基本的な語句は、英語の単語と同様に、覚えなければいけないものであることを強調し、講義を行なっていく。また、計算を苦手とする学生は、乗数効果の説明に際しては計算を行なうので、そのことに留意して欲しい。	・社会経済現象に対して関心を持つようになる。・自分の考えを経済学の言葉で説明できるようになる。	◎	○	
コア科目群	経営学概論	1年生	前・後	本講義は、主に経営学を初めて学ぶ学生諸君を対象とした「導入科目」であり、その基本分野である「企業システム」(会社の成り立ち)、「経営戦略」(企業成長の方法)、「経営組織(戦略達成のための組織デザイン)」、「経営管理」(モチベーションとリーダーシップ)の基礎的知識(理論)を幅広く解説します。経営学という「学問そのもの」にまずは興味・関心をもってもらうことが目標ですが、それに加えて受講学生の皆さんが現実の会社経営や産業のあり方について十分な基礎的理解を得られるよう、できる限り多くの企業/業界の事例を取り上げていく予定です。	・経営学の各領域における基本的な理論/考え方について、その内容・目的等を適切に説明できる。・新聞・雑誌等に掲載される企業・業界関連記事の概要を理解し、その要点を適切に説明できる。・経営学検定試験(大学生修得レベル)の出題領域に対応する必要知識の40%程度を習得できる。	◎	○	
コア科目群	経営学概論(留)(再)	2-4年生	後	現代におけるわれわれの便利な生活は、企業によって支えられているといっても過言ではない。こうした企業がどのような経営活動を行っているのかについて関心をもつようになると、経営学に関する知識が必要となってくる。本講義では、経営学の基礎概念・理論などを紹介・解説しながら、経営学の基礎知識を学んでいく。	経営学の基礎的な概念・知識を理解し、説明することができる。	◎	○	
コア科目群	簿記入門	1年生	前	複式簿記の構造、財務諸表の内容、簿記一巡の手続きを中心に理解する。前半では、複式簿記の構造、財務諸表の内容、勘定科目の内容について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、簿記一巡の手続きについて説明する。これによって、仕訳、試算表の作成ができるとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記初級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。	1.複式簿記の構造について、説明することができるようになる。2.簿記一巡の手続きについて、説明することができるようになる。3.学習範囲の仕訳について、説明することができるようになる。	◎	◎	○
コア科目群	初級簿記	1年生	後	複式簿記の構造、財務諸表の内容と作成方法、簿記一巡の手続きについて理解する。前半では、複式簿記の構造、主要簿及び補助元帳・補助記入帳について説明する。これによって、複式簿記の構造に関する総論的・各論的な知識を得ることができる。後半では、英米式決算法と財務諸表の作成方法について説明する。これによって、財務諸表の作成が出来るとともに、複式簿記の構造について理解することができる。また、日商簿記検定3級の出題範囲を網羅していることから、それについて解答できる。	1.複式簿記の構造について、説明することができる。2.会計処理のルールとその考え方について、具体的に述べることができる。3.財務諸表について、正確に作成することができる。4.財務諸表作成に関する具体的な会計処理について、正確に行うことができる。5.簿記一巡の手続きについて、説明することができる。	◎	◎	○
コア科目群	職業と経済	1年生	後	前期開講の「職業人入門」を踏まえ、職業と経済の関係について考察する。経済社会の成り立ちを知り、その一員としての自覚を促し、自らの職業選択に役立つよう、働くことの意味、職業の盛衰や技術進歩の影響、必要な能力の変化などについて解説する。また、経済・経営分野での数字への感覚を身につけるため、いくつかの基礎的な数字について解説する。	1.自分の将来の職業選択について具体的に考えるようになること。2.職業に必要な能力について考えることができること。3.経済経営の、ごく基礎的な数字について見当がつけられること。	◎	○	○
コア科目群	統計学入門	2年生	前	近年ビッグデータの時代と言われていますが、そのデータをどのように活用するかに関する基本を学びます。また本講義を通じて実際にデータを問題解決に結びつけるための基礎となる理論を中心に学びます。得られたデータをどのように加工するか、どのような特徴・特性を持っているのかについて学習し、大量のデータから意味のある結論を導くための第一歩を踏み出しましょう。	1.データの種類とそれぞれの取り扱いはについて理解できる2.データの平均・分散(標準偏差)を求め、データの特徴を掴むことができる3.記述統計と推測統計の違いを理解できる4.統計を用いて自分が分析したいことを想定できる	○	◎	
コア科目群	ミクロ経済学入門	2年生	前	ミクロ経済学は個人として、企業として、私たちがどのような選択をするべきかについての基準を教えてくれる学問です。なるべく身近な話題を用いながら、消費者としての選択や企業としての行動がなぜ選ばれたのか、明解に解説します。ミクロ経済学の考え方は、経済活動にとどまらず政治やスポーツ、人間関係等に広く応用することができます。なるべく数式ではなく図を用いて直感的に理解できることを目的とします。	1. 価格の決め方を説明できる2. 消費者の行動基準、企業の行動基準を説明できる3. リスク・不確実性を適切に描写できる4. 身近な事柄をゲームとして表現して、自分が取るべき行動を判断できる	◎	◎	○

コア科目群	マクロ経済学入門	2年生	前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのかをマクロ経済学的視点から解説し、財政赤字の現状などに即して政府のマクロ経済政策の課題とあり方について考察する。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果などを分析する。なお、プリント(ユニバから配布予定)とOHCを利用して講義を進める。	①マクロ経済学の基礎理論を理解し、現実経済の動向を分析できる能力を身につける。②マクロモデルの違いを説明できるだけでなく、現実経済との関連性を理解できる。③日本経済の現状と課題について問題意識を持ち、それらの問題に対して自分なりの分析を実践できる。④様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
コア科目群	経済史	2年生	前	経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、生存に最も必要な人間の営為のひとつです。経済史は、社会的な動物である人間の経済について、それを歴史的営為として意識し、事実を整理、分析し叙述したものに他なりません。経済史の叙述は、社会や人がそうであるように、多様な考えや見方にもとづきなされます。たとえば一国を軸にしたものからグローバルな視点にもとづくものまで、政府や企業、産業、経営者、企業家に関するものまで、多種多様です。この講義では、経済史学に関する整理、分析、叙述の仕方に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述を事例として解説したいと思います。	・物事を見て説明するには筋道を立てることが必要であることが理解できる。 ・多くの事実を情報として知覚し、物の見方を通じ取捨選択する必要性の理解につながる。 ・経済事象を長期的スパンからストーリーとして見ることができ ・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる	◎	◎	○
コア科目群	会社入門	2年生	前	本講義では、現代(日本の)企業システムに関する基礎的知識の習得を目指します。前半は、会社(企業)の種類や特徴、社会的な役割などについて学び、中でも「株式会社」と「株式市場」の仕組み、またコーポレート・ガバナンス(会社統治)の問題に重点を置いて解説していきます。後半は、「企業間関係」の問題に焦点を当てて、企業間競争のあり方(競争の意義と問題点)、M&A(企業の合併と買収)、また日本の企業システムに固有のグループ戦略(企業グループの原理、持ち株会社制、系列組織、企業集団など)について解説し、広く(日本の)会社組織の行動原理について学んでいきます。	・株式会社および株式市場、また会社統治の仕組みとその役割など社会人として必要とされる企業関連の基礎的事項について説明できる。 ・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、適切にその理由やポイントを説明することができる。 ・経営学検定試験(大学生修得レベル)の「企業システム」領域について60%程度の知識を修得することができる。	◎	○	
コア科目群	会計入門	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として13年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。企業活動の経済的側面について総合的な知識を得るためには最も優れた情報源は、企業の財務活動が生み出す会計情報である。本講義では、企業の財務会計が、どのように企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を知ればよいのかを総合的に理解することを目的とする。とくに、財務諸表の作成プロセス、会計情報の作成プロセス、外貨建取引や連結決算、実際に公表された財務諸表より経営分析を行う方法、現実の企業データ等を活用して学修する。	1. 企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのかを説明できる。2. 会計情報をどのように利用して企業の状況を知らればよいのかを説明できる。3. 財務諸表及び会計情報の作成プロセスを理解できる。4. 財務諸表より経営分析をすることができる。	◎	◎	◎
コア科目群	企業経営入門	2年生	前	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念や用語を講義・解説するとともに、産業界のトレンドを解説していきます。	1.経営体や経営学の全体像が理解できる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	◎	◎
コア科目群	商業の歴史	2年生	前	商業は、歴史上、古くから存在していた産業であるとともに、現代の経済においても大きな比重を占めている。しかしながら、こうした特徴をもつ商業の歴史的展開の過程を顧みる機会は少ない。本講義では、商業史を学ぶうえで前提となる商品・貨幣・信用などの概念を説明したのち、前近代から近代における日本の流通・金融・貿易などの分野に焦点をあてる。われわれの日常生活と密接なかかわりをもつ商業を歴史的な観点から考える。	日本における商業の歴史的形成と発展過程について説明することができる。	◎	○	
コア科目群	日本経済論入門	2年生	前	日本経済の戦後から現在までの推移、動向等について基礎的事項を中心に解説する。また、現在の日本経済の諸課題の要因等についても解説する。授業では教員のこれまでの業務経験も含めた具体的事例も取り入れて解説する。	・戦後から現在までの日本経済の推移、課題等について基礎的事項が理解できる。	◎	○	○
コア科目群	日本経済史	2年生	後	この講義では、近世から近代の日本経済の概要を見た上で、産業や市場の展開を通じた地域創造について講義します。近世は土地に依拠する石高制にもとづく幕藩制的経済構造が成立し、大坂、江戸を中心とする市場構造が発展しました。その後、各種産業が地方を中心に発展し、市場経済は大坂、江戸以外にも広範な広がりを見せました。近代には産業革命・工業化が始まり、そして進化した結果、それに相応する地域が各地で創出されました。北九州もその代表的な例のひとつです。講義を通じ、産業の発展や衰退を通じた地域変革の歴史をみたいと思います。	・長期的観点から経済の歴史を知ることができる ・土地に依拠した地域から産業に応じた地域の創造を知ることができる ・将来社会人として仕事に携わる際の心構えを身につけることができる	◎	○	○
コア科目群	マクロ経済学	2年生	後	本講義では、マクロ経済学の基礎理論を用いてマクロの経済問題を解説するとともに、マクロ経済学がどのようにモデルを拡張しながら、一国全体の経済問題を研究しているかを考察する。なお、拡張する前後の違いを式やグラフで視覚化しながら解説するので、一次方程式や直線の図解に関する基礎的な数学的知識が必要である。また、IS-LM分析はグラフの導出過程やシフト過程等を説明した上で、経済政策等が及ぼす影響を分析する予定である。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進める。	①マクロ経済学の基礎理論を理解し、現実経済の動向を分析できる能力を身につける。②マクロモデルの違いを説明できるだけでなく、現実経済との関連性を理解できる。③経済政策が及ぼす影響をマクロ経済学の基礎理論で判断できるようになる。④マクロ経済学の課題に対して問題意識を持ち、その解決策を考察できるようになる。	◎	○	

コア科目群	ミクロ経済学	2年生	後	ミクロ経済学は個人として、企業として、私たちがどのような選択をするべきかについての基準を教えてくれる学問です。なるべく身近な話題を用いながら、消費者としての選択や企業としての行動がなぜ選ばれたの、明解に解説します。ミクロ経済学の考え方は、経済活動にとどまらず政治やスポーツ、人間関係等に幅広く応用することができます。入門と類似する内容でも本講義は簡単な数式を用い、公務員試験の基礎固めができるようになることを目的とします。	1. 価格の決め方を説明できる2. 消費者の行動基準、企業の行動基準を説明できる3. 余剰概念を用いて、簡単な政策分析ができる4. 身近な事例をゲームとして表現して、自分が取るべき行動を判断できる	◎	◎	○
コア科目群	統計学	2年生	後	データの活用は、できて当然の時代となりました。しかし、データの活用には基礎的な知識を必要とします。本講義では基礎的な知識の修得を目的とします。基礎的な知識の習得のためには、実際に電卓を使って標準偏差等の計算をしてみることが、習得するのに最も役立ちます。このため、本講義では毎回電卓を持ってくることを義務とし、持っていない場合には何らかのペナルティを課す予定です。	・データの平均・分散(標準偏差)を求めることができるようになる。・独立性の検定ができるようになる。・単回帰方程式の計算ができるようになる。	◎	○	
コア科目群	経済とデータ分析	3年生	前・後	本講義の目的は、受講者が統計リテラシーを高めたうえで、経済統計を用いた各種のグラフ作成と簡便なデータ加工・計算を通じて基礎的な経済分析のスキルを修得することである。具体的な授業課題は、①統計とは何か、どのような特徴を持っているのか、何のために統計を利用するのかについて明確な意識を持つこと、②Excelを利用して、スプレッドシート形式(Excelファイルもしくはcsvファイル)で公表されるデータの整理、変化率や指数などの計算を行い、各種のグラフを作成すること、③複数系列のデータに対する回帰分析を行うことである。授業は講義を交えながら、実習形式で行う。	いくつかの経済統計を具体的な例として挙げ、どのような意図で作成され、どのような目的で使うことができるのかを、自分の言葉で説明できる。・データの性質や分析の目的に応じ、折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、散布図などのうち、どのグラフを選択すべきかについて適切な判断ができ、実際にExcelで作成できる。・Excelの四則演算機能に基づいて、変化率、移動平均、指数などの計算ができる。・Excelのデータ分析機能などを利用して、単回帰分析を実施することができる。	◎	○	○
コア科目群	経済学特講Ⅰ(地方公共団体の財政健全化)	3年生	後	当講義では、地方公共団体(地方自治体)が住民の生活を支えるうえで果たしている役割を踏まえたうえで、どのような制度によってそれが支えられているのか、また、どのようなルールや仕組みが財政破綻に陥らないように地方公共団体を律しているのか、解説する。特に、地方公共団体の自発的な財政健全化を促す仕組みが組み込まれている地方財政健全化制度に焦点を当てて、具体的なルールと実際の財政健全化の成果などを紹介する。	・地方公共団体の財政運営がどのような制度によって支えられているのか、国と地方公共団体がどのような関係にあるのかを理解する。・個別の地方公共団体がどのような分野への歳出を行い、どのような歳入(財源)によって、それを賄っているのかを理解する。・個別の地方公共団体が財政危機に陥ることを回避するための仕組みや、財政状況が悪化した場合に地方公共団体の自発的な財政健全化を促す仕組みについて、理解する。	◎	◎	
コア科目群	経済学特講Ⅰ(地域産業政策)	3年生	後	地域活性化の推進、持続可能社会の構築のため、今後さらに重要となる地域産業政策の概要、方向性等について解説する。また、地域産業政策の推進において重要である地域における新ビジネス創出の方法等についても、教員のこれまでの政府、独立行政法人等の業務経験を踏まえ、具体的に解説する。	1. 地域活性化を推進する上で地域産業政策の立案及び実施の重要性について理解できる。2. これまで実施されてきた地域産業政策の概要と結果について理解できる。	◎	◎	○
コア科目群	経済学特講Ⅰ(公務員試験対応)	3年生	後	本科目は、公務員(行政職・警察官・消防官等)を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い論文・作文の書き方についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、論文試験・作文試験では、概ね800字～1200字を60分～90分程度で書いていかなければなりません。また、出題テーマも試験によって様々であるため、時事問題を理解した上で、文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける必要があります。したがって、これらの対策講座を行います。	① 時事問題を理解し、説明することができる。② 文章の構成の仕方や論理的な書き方を身に付ける。③ 各公務員の職務内容についてよく理解し文章に反映することができる。	◎	◎	○
コア科目群	経済学特講Ⅰ(大学院)	3年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習していきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
コア科目群	経営学特講Ⅰ(社会人基礎講座)	3年生	後	本講義は、社会人として必要とされる知識や能力を身につけることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会に興味・関心をもてるようになる。2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅰ(ISO9001)	3年生	後	1. 講師はISO(国際標準化機構)の審査機関であるEQA国際認証センターの審査活動ならびに審査員トレーニングの経験を活かし実務の授業を展開する。2. この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部監査資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。後期の集中講義(4日間)を受講することにより、品質マネジメントシステム(ISO9001)内部品質監査員の資格を取得する事ができる。(有料)試験の合格点は70点以上とする。	監査計画、実施、証拠の収集、経営者層に提出する監査報告書の作成等の監査力量を備えた内部環境監査員の養成を目指す授業である。ならびに、持続可能な社会の実現に向け、将来において環境管理に関して適切な意思決定を行うための素地を養う授業である。	◎	◎	◎
コア科目群	経営学特講Ⅰ(ビジネスとプレゼンテーション)	3年生	後	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそしてより魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的のプレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる。3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる。4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる。5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる。	○	◎	◎

コア科目群	経済学特講Ⅱ（住宅の経済学）	4年生	前	当講義では、まず、住宅の規模や価格、持家率、既存住宅の取引頻度など住宅市場の実態を統計に即して紹介する。そのうえで、持家と借家の土地利用・戸数・床面積はどのようにして決まるのか、どのような相互関係の上に成り立っているのか、家賃や地価（住宅価格）はどのようにして決まるのか、を経済学の基礎的な考え方に基づいて理論的に解説する。さらに、借地借家法や税制、金融政策がこれらに及ぼす影響や家賃補助政策や公的住宅の直接的是非について、経済学的な考察を行う。	・住宅価格の決まり方や住宅政策の効果を経済学の考え方に沿って説明できる。	◎	◎	
コア科目群	経済学特講Ⅱ（地域公共政策）	4年生	前	現在の我が国は少子高齢化や巨額の財政赤字等、多くの問題を抱えている。本授業ではこれらの課題の要因と推移を解説するとともに、これらの課題に政府等がどのような政策を行っているのか等について、教員のこれまでの政府、独立行政法人等における業務経験も踏まえ、様々な事例を用いて解説する。	・これまで実施されてきた地域公共政策の概要と結果について理解できる。・地域課題に対する地域公共政策の取組み事例について理解できる。	◎	○	○
コア科目群	経済学特講Ⅱ（公務員試験対応）	4年生	前	本科目は、公務員（行政職・警察官・消防官等）を目指す学生を対象として、公務員試験の一次試験や二次試験で行われることが多い集団討論や面接対策についての講義を行います。試験の種類によって異なりますが、集団討論や面接においては、時事問題や各公務員の職務内容に関するテーマが出題されたり質問されるため、よく理解しておく必要があります。これらの対策講義を行いますので、公務員を目指す学生は、是非履修してください。	① 時事問題を理解し、説明することができる。② 各公務員の職務内容についてよく理解し説明することができる。③ 論理的な思考および説明能力を身に付けることができる。	◎	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅱ（社会人基礎講座）	4年生	前	本講義は、社会人として必要とされる知識や能力を身につけることを目的としている。そのためには、社会人基礎力、社会常識、「考える力」について理解を深めるとともに、読み・書きを通して基礎力の向上を目指す。	1. 社会に興味・関心をもつようになる。2. 社会人や職業人に必要な基礎知識を理解することができる。3. 情報を読み解くことができる。	○	◎	○
コア科目群	経営学特講Ⅱ（ビジネスとプレゼンテーション）	4年生	前	実社会ではビジネスシーンを中心とした様々な場面で、自らの考えや企画などを関係者に開示しアピールし、理解を得て賛同を獲得することが求められるようになります。アピールコンテンツ自体が正しくかつ魅力的であることが大前提なのは言うまでもありませんが、それを正確にそして魅力的に伝えるためには、伝達技法にも留意した合理的・効果的のプレゼンテーションが不可欠です。この授業では、そうしたプロセスで必要とされる様々なスキルを、就職活動への応用も意識しながら実践的に学びます。	1. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。2. 理解した情報を伝達可能なコンテンツに合理的に再構築できる。3. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを正確かつ魅力的に構成できる。4. 伝達すべき情報コンテンツ及び考えを口頭で伝えることができる。5. プレゼンテーション用アプリケーションの効果的な利用ができる。	○	◎	◎
領域科目群	会社法	2年生	前	会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律です。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っています。ニュースや新聞紙上でも、株式、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻りに登場しますが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律であるのです。この授業では、株式会社を中心に会社法の基礎を体系的に理解できるように、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点から授業を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 会社法の基本的仕組みを理解できる。② 会社法の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域科目群	金融と会計	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として13年（兼任）した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。本講義では、財務諸表論の初心者から中級者程度の知識を有する学生を対象として、財務会計の制度を分かり易く解説して財務諸表が読めるようになることを目的とする。財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者（ステークホルダー）に対して当該企業の財政状態および経営成績に関する真実な情報を提供している。とりわけ、財務諸表は企業外部のさまざまな情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供することを使命としているので、理論と実務の両側面からアプローチし学修する。	1. 財務諸表である貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の機能とその関連性が理解できる。2. 財務諸表は国内の法律や欧米の会計基準の影響を受けるため、会計の理論とその制度を理解できる。3. 企業の財務諸表に必要な会計処理ができる。	◎	◎	◎
領域科目群	財政学入門	2年生	前	当講義では、財政学の考察対象を網羅的に紹介したうえで、政府の予算制度を中心として国民経済的な見地から政府活動の実態とその効果について解説する。制度の説明に際しては、現実の予算・決算の資料や最新の統計数値を利用する。理論の解説に際しては、図による説明を基本としつつ、マクロ経済学の考え方を応用して、財政の経済安定化機能を具体的な形で学ぶ。なお、関連科目である「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用した税制の経済効果の考察を行い、当「財政学入門」で学修する事項との重複部分はない。	・新聞等で報道されている日本の財政状況について、客観的に事実を整理することができる。・日本の財政に関する問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	
領域科目群	民法（総則・物権）	2年生	前	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、基本的原則を定める「総則」編と、物に対する権利を定める「物権」編について学びます。法律知識を身につけながら、民法と私たちの身の回りの出来事がどのように関わっているかを説明します。そのために、以下の方法で行います。・総則・物権に関する基本的な知識を、条文を参照しながら説明する。・総則・物権について、具体例を挙げながら説明する。	①民法の基本的な原則を説明できる。②物権の具体的な内容を説明できる。③総則・物権編の基本的な法律用語を説明できる。④私たちの生活に民法がどのように関わっているかを説明できる。⑤身の回りの問題を法的に捉えて、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○

領域 科目 群	中級簿記	2年生	前	企業の日々の経済活動を記録・計算・集計し、結果として経営成績、財政状態を明らかにするツールが簿記である。本講義では企業のうち商企業の活動を対象とした商業簿記を学ぶ。まずは簿記一巡の手続きを復習し、その後現預金・手形・有価証券・引当金・本店会計・固定資産・商品売買等の個々の重要な論点を整理し、それらの取引から発生する仕訳、帳簿記入について学習をすすめる。税理士としての経験を活かし、実務上の論点なども踏まえながら授業を展開する。また日商簿記検定2級など会計関連の資格取得を目指す学生にとっても有益な授業とする。職業会計人に関心のある学生の積極的な履修を期待するものである。	1)簿記の一巡の手続きを理解することができる。2)現預金、有価証券、固定資産、等の記帳を理解することができる。3)株式会社のしくみ、役割について理解することができる。4)本店会計について理解することができる。5)実学としての簿記が社会に果たすべき役割を理解することができる。	○	◎	○
領域 科目 群	イベント論	2年生	前	味の素㈱でのスポンサー経験、味の素スタジアムでの勤務経験をふまえ、スポーツ、音楽、地域、商業など多彩なイベントの実態を紹介しながら、日本イベント産業振興協会のテキストをベースに授業を進める。COVID-19の影響で、2020年は東京オリンピック・パラリンピックから、地域の伝統的な祭りまで多くのイベントが中止、延期、自粛の対象となり、これらイベントが人々の生活に潤いや絆をもたらす大きな役割を果たしていたことがわかった。この講義では、イベントが、どのような歴史や成り立ちをして、開催までにどんな準備・運営をされているのかを、様々な実例から学ぶ。本講義を通じて上記協会の「イベント検定」の受験が可能となる。	・イベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明ができるようになる。・イベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎を学ぶことができる。・身近にあるイベントの企画や運営を行う基礎を学ぶことができる。・イベントに関連する企業や団体について理解を深め、就職活動の対象とすることができる。	○	○	◎
領域 科目 群	環境のビジネス	2年生	前	企業に求められる社会的責任のうち、特に外部への環境に与える影響とその緩和策について概観する。いくつかの会社のCSR報告書を概観し、その実態を把握する。また国際標準化機構ISO14001の骨格を理解できるようにする。	企業のCSR報告書の構成と内容を理解できる。企業が取り組む環境保全の取り組みを理解する能力を身に付けることができる。企業のCSRを理解することにより我が国の環境行政の在り方と国際貢献について広い知見を持つことができる。	◎	◎	◎
領域 科目 群	人口学	2年生	前	少子化・高齢化が進む中で人口減少は、日本の経済社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況では、人口データの性質を把握し、人口が経済社会に及ぼす影響を客観的に分析する能力とその分析結果の意味を理解する能力が重要と思われる。そこで、本講義では、上記の事を念頭に置いて、人口学で用いられる分析方法や結果の解釈等を体得するための講義を実践的に進める。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進める。	①少子・高齢化の現状及び将来動向についての基礎知識を習得する。②人口モデルの数値から人口変動の動向などを判断することができる。③人口変動と経済社会の関係を把握して、経済社会の将来を見通すことができる。④実践的な分析力を習得し、人口問題の解決に寄与できる能力を身につける。	○	◎	○
領域 科目 群	非営利組織論	2年生	後	今日、非営利組織は社会のニーズに応える新たな存在として関心が高まってきており、行政や営利企業でもない第3の主体として重要な役割を果たすことが期待されている。そこで、地方公務員として、まちづくり、教育、地域医療等に従事したのち、現在NPO法人や株式会社を設立・経営している経験を活かし、それぞれの視点から非営利組織を捉えて、その概要や社会的意義を明らかにしていくとともに、さらに、その実体から見てくる特徴や課題、可能性を整理しながら非営利組織に対する理解を深めるため、身近な具体的事例を取り上げながら授業を展開していく。	①非営利組織についての実態や特徴を把握して説明できる。②グループワークに積極的に参加して、説明・発表ができる。③非営利組織を正しく理解して、将来の具体的な職業をイメージすることができる。	○	◎	◎
領域 科目 群	憲法	2年生	前	わが国の最高法規である日本国憲法の基本的な考え方を学ぶ。1～9回は基本的人権論(私たちにどのような人権がどの程度保障されているのか)、10～15回は統治機構論(わが国の国のしくみがどのような構造になっているのか)について解説していきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、人権への配慮や行政運営に関わってきた経験を交えながら講義を行う。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめ、自ら論理的に考え、他者に説得力をもって説明できるように、講義を進めていく。	①憲法の個人の尊厳原理は、多様な価値観を尊重し、自己の価値観に基づき自己の意見を述べ、他者とのコミュニケーションの中で主体的に人格形成に取り組むことを求めている。講義を通じ理解・実践できるようになる。②人権問題、政治的法的紛争に対し、憲法上の知識を活用し、論理的に考え、自ら答えを導き出せるようになる。社会人として、広く社会的事象に目を向け、バランスよく、的確な判断をしていくために必要な価値基準を学び取ることを目標にする。③憲法上も経済的自由権がある。学士(経済学)に必要な知識考え方を身に付け、経済学および経営学の学問体系との関連性についても理解できるようになる。	○	◎	○
領域 科目 群	スポーツビジネス入門	2年生	前	「スポーツ×○○」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言います。プロスポーツからアマチュアスポーツに関わるあらゆる方面で仕事をしてきた経験を生かして、実際にどのようなビジネスがあるのかを本授業では概観していきます。ビジネスの主体として自分の立ち位置を考える習慣を身につけましょう。「自分が○○をする」という仕事、「自分が○○のために△△する仕事」…といった捉え方で業界を見ていきながら、沢山のスポーツビジネスを見つけてください。	□「スポーツビジネスとは？」と問いかねられた時に概要を説明できる。□スポーツを「する」という関わり方以外のスポーツの活用方法について、ビジネスの側面から具体的な事例を2つ以上説明できる。□スポーツに関わる仕事に就くというイメージも持つことができる。□スポーツビジネスの収益システムにおけるBtoB、BtoC、BtoBtoCの具体的な事例を最低1例ずつ紹介できる。□授業で紹介された実際のスポーツビジネスの事例をより深く理解するための質問を最低2つ考えることができる。	○	○	○
領域 科目 群	ビジネス実務総論A	2年生	前	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用にいたるまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
領域 科目 群	日本経済論	2年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■日本はかつての高度経済成長から低成長の時代に入り、近年では人口構造の変化や発展途上国の追い上げにより、相対的に停滞しています。日本経済再生のためには、歴史的な変遷と現状を正確に把握することが必要です。この授業では日本経済について、全体的な動向を歴史的にたどり、ついで個別の論点について講義します。	・日本経済の概要を理解し説明することができる。政府や産業や企業の動向を知る事ができる。現在および将来発生するであろう社会経済をめぐる諸問題を理解することができる	◎	◎	○

領域 科目 群	金融論入門	2年生	後	・金融の定義、目的と機能、および経済社会に対する効果を取り上げる。・主に4つの側面から金融を分析し、理解することを狙う。第1:まず初めに金融業界・業態の全体像を俯瞰して、それぞれが果たしている金融機能を見る。第2:金融取引をする際の基本的構成要素の経済学的な意味を解説する。第3:資金需給のニーズや、そのための仕組みを解説する。第4:金融のマクロ経済学的側面について学習する。・教員のコンサルティング会社およびデータ分析会社での経験を基に、授業にロジカル・シンキングの視点を取り入れます。	・必要最小限度の金融リテラシーを理解している。・イメージではなく、経済学の基礎に基づいて金融の機能と効果を理解している。・各金融業態や金融機関の目的、機能と特徴を理解している。・金融機関、金融政策およびマクロ経済に及ぼす影響について理解している。	◎	◎	○
領域 科目 群	商法総則	2年生	後	本講義は、商法「第一編総則」を対象とします。商法は、商人及び企業取引に関する法律ですが、その基礎をなす商法総則の基本概念・制度趣旨を中心に講義を行います。平成17年の会社法制定により、現在、商法総則の規定の大部分は、個人商人にのみ適用されますが、商法総則と会社法総則の多くは共通していることから、個人商人特有の問題に関し、会社組織との対比を念頭におきながら講義を行います。また、税理士としての実務経験を活かし、実践的視点からも授業展開を行います。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての商法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。① 商法の基本的仕組みを理解できる。② 商法の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な商法の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域 科目 群	経済政策入門	2年生	後	経済政策を理解する上で必要な知識を解説する。また、現代社会の経済に関する課題等についても同時に理解を目指す。さらに、教員のこれまでの政府、独立行政法人等の業務経験を踏まえ、様々な事例を用いて解説する。	1. 現代経済の基礎的事項について理解できる。2. 現代経済の基礎的課題について理解できる。	◎	○	○
領域 科目 群	環境経済学入門	2年生	後	本講義では、環境保全と経済活動の密接な関係や様々な環境問題を分析するために必要とされる経済学的手法を学ぶ。環境経済学の課題を幅広く理解し、実践に活かせる問題解決能力を養う。私たちの生活と環境問題との関わりを考察しながら、環境問題が発生する原因とメカニズムを理解し、環境問題を解決するための基本的な考え方や環境政策手段についての基礎理論を学ぶ。具体的な環境政策の方向性や課題を明らかにし、さらに環境が持つ価値を経済的に評価する手法や適用事例を学ぶ。環境検査企業にアドバイザーした経験を活かした授業を展開する。	①環境と経済の関係について、環境問題が社会・経済に及ぼす影響を説明できる。②環境保全のための経済的手法や専門的知識を習得し、応用できる。③環境問題への関心を高め、経済学の応用を通じて環境問題の現状や環境政策の意義・役割について理解を深め、環境問題を解決するための対策を自分なりに提示することができる。	◎	○	○
領域 科目 群	財政学	2年生	後	当講義では、租税と社会保障に焦点を当て、各制度の内容を踏まえたうえで、その経済効果を解説し、財政の資源配分機能と所得再分配機能を学ぶ。特に、理論の解説に際しては、ミクロ経済学の考え方を応用する一方、経済効果については図を用いた説明を基本とする。なお、「財政学入門」では、マクロ経済学の考え方も応用して、予算制度を中心に政府の経済活動を国民経済的見地から考察するのに対して、当講義「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用して、税制の経済効果の考察を行う。また、「租税制度」が各種税制の実際の内容を理解することを重視するのに対して、当講義では経済効果などの理論的な理解を重視する。	・新聞等で報道されている日本の税制と社会保障について、客観的に事実を整理することができる。・問題の所在や解決に向けた論点を自分の言葉で説明できる。	◎	○	○
領域 科目 群	民法(債権)	2年生	後	民法は私たちの日常生活に密接に関係する基本的な法律です。この授業では、民法の5つの編のうち、債権分野について学びます。「他人に対して特定の行為を請求できる権利(債権)」を学ぶことで、法律知識を身につけると同時に、身の回りの問題について法的観点から自分の頭で考えることができることを目指します。そのために、以下の方法で行います。・債権に関する基本的な知識を、条文を参照しながら説明する。・債権について、具体例を挙げながら説明する。	①様々な債権について具体的な内容を説明することができる。②債権分野に関する基本的な法律用語を説明することができる。③債権が私たちの生活にどのように関わっているのかを説明することができる。④身の回りの問題を法的に捉え、自分の頭で考えることができる。	○	◎	○
領域 科目 群	上級簿記	2年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め約25年、税理士として13年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。工業簿記は、材料を仕入れ、機械などを利用して加工し、製品を作り販売する製造業で用いられる簿記である。これらを複式簿記の原理に基づいて知識と技術を用い詳しく説明し、記録・計算をする。前半では、実際原価計算における費目別計算及び部門別計算について、その内容と考え方を説明する。これによって、原価計算の計算段階に関する知識を修得する。後半では、実際原価計算における製造別計算及び標準原価計算について説明する。これによって、原価管理ができ、原価計算制度に関する知識を修得する。	1. 原価計算の目的と原価計算制度の分類について、説明することができる。2. 実際原価計算の手続きについて、具体的に述べることができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 標準原価の算定について、正確に行うことができる。5. 原価差異の算定および分析について、説明することができる。6. 日商簿記検定2級工業簿記の出題範囲とその内容を網羅しており、それらについて解答できる。	◎	◎	○
領域 科目 群	産業組織論入門	2年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■産業組織論は、産業全体としての成果を、次の視点から分析するものです。(1)企業の行動(2)市場構造(3)企業組織(4)政策 それぞれの回が以上4つのどれにあたるのか意識しながら学ぶことで、経済を分析する視点が身につけていくはず。	1.企業の独占や複占が生じる環境とその帰結を理解できる 2.企業を、人が集まる組織として理解できる 3.企業の変容(分社化・M&A)がなぜ生じるのか自分なりの意見を説明できる 4.企業を取り巻く政策が企業行動に及ぼす影響を理解できる	◎	◎	○
領域 科目 群	経済統計	2年生	後	経済統計データを活用する場合、誰がどのような目的で、どのような調査方法で収集、整理されたものか、対象であるデータの性質を的確に理解し、経済分析に利用しなければならない。しかし、そのためにはまず中央値や平均値や標準偏差などを基にした基礎知識を持っていることが望まれる。その上で、経済データの分析方法とその結果の意味するところを理解することが重要である。統計学の内容を習得していることを前提として、電卓を使って経済統計に基づく分析方法・結果の解釈等を体得するための講義を行なう。	・統計的な見方、考え方を会得できるようになる。・統計を使った文章を見て、どこに問題があるか理解できるようになる。	◎	◎	○
領域 科目 群	経済学史	2年生	後	経済社会を運営するには様々なやり方があることを学ぶ。第一に考えるべきは、自由なのか、平等なのか。どんな社会を作り、どんな原理で経済が運営されれば、人々は幸福になれるのか。経済の根本思想について学ぶ。	代表的な経済思想の特徴を説明できる。また、その思想がどんな時代状況から生まれてきたのか、説明できる。	◎	○	○

領域 科目 群	公共経済学入門	2年生	後	本講義では、市場メカニズムの機能とその限界、政府の経済的役割などについて体系的に学ぶ。市場の機能と市場の失敗を踏まえたうえで、市場の失敗を是正するため、市場に対して政府がどのように介入すべきなのかを考察する。また、政府の経済活動が家計や企業の経済活動にどのような影響を与えるのか、具体的な事例を挙げて説明する。さらに、公共財や公共支出の評価、及び規制や課税の経済的効果などについて学ぶ。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進める。	①公共経済学の基礎理論やその応用方法を理解し、説明することができる。 ②現実の経済問題について自分なりの解決策を提示できる問題解決能力を身につける。 ③専門用語を正しく理解した上で、専門用語を実践的な分析に活用できる。	◎	○		
領域 科目 群	経営史	2年生	後	現代社会において重要な位置を占めている会社は、資本主義経済のもとで営利目的をもって生産活動を行う組織体ととらえることができる。本講ではこうした会社が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。現代企業の代表的存在である株式会社が制度として成立・発展するプロセスを振り返り、その歴史的意義について考える。	株式会社の特徴と歴史的な形成過程について、説明することができる。	◎	○		
領域 科目 群	北九州の自然と環境	2年生	後	北九州市およびその周辺都市で形成される地域は、人口約200万人を抱える北九州都市圏である。また、北九州市には公害を克服した洞海湾があり、多様な自然がエコタウンや北九州空港などの産業とバランスよく配置された地域である。これらの特徴を学び、理解することで、地域の循環システムやそれに基づいた豊かな自然環境の重要性とそれらを保全することの大切さについて説明する。	1. 北九州の多様な自然について理解し、具体的にその説明ができる。2. 北九州市の環境に対する取り組みを理解し、具体的事例について説明ができる。3. 地域の自然環境とその保全の必要性を理解し、その手法について説明ができる。	◎	◎		○
領域 科目 群	公共マネジメント論	2年生	後	現代社会には、様々な社会問題、環境問題が顕在している。それらの問題を取り除く手法は行政依存から脱し、地域を構成する様々な主体が協働し、経営やまちづくりに新しい付加価値をつけたり、時代に相応しい価値観を創出したりするデザインが必要である。この授業では、地域資源や人材を資産と考え、その資産を活用した産業振興や安全安心なまちづくりなど様々な具体的な取組事例や政策推進の手法としての「公共」について学ぶとともに、北九州市において、約20年に渡る市民参加型のまちづくりの実践を踏まえ、成果だけでなく困難な点なども紹介しながら経営やまちづくりに自らの関わり方を考える。	・経営やまちづくりにおいて、経済性や合理性だけでなく、地域性や将来性を考慮し、理論的かつ実践的に把握・理解する。 ・地域の現状を客観的に認識し、様々な課題に対し、地域の資産や人材を協働により解決しながら豊かな地域づくりに向けて 取り組める人材に自らなることを目指す。 ・特定の地域を設定し、その地域の課題を整理しながら成果を導く具体的な提案ができる。	○	◎		○
領域 科目 群	販売管理論	2年生	後	例えば、皆さんは日常生活で以下のことを経験したことがあると思います。 ・ポイントの付与 ・キャンペーンの実施 ・店員による商品補充 ・配送業者が商品を届ける ・高齢者・外国人従業員の利用、など。本講義は、身の回りにおける小売業の経営を経営学の視点で学ぶことをテーマに講義を行います。なお、本講義はパワーポイントを使用するため、履修者は講義が始まるまでにユニバーサルパスポートから講義資料を印刷し持参してください。	本講義は、経営学の視点から小売業の実態を理解することを目的とします。 ・管理論、組織論→小売店の組織構造を理解する ・戦略論、マーケティング→小売業のマーケティング戦略や出店戦略を理解する ・人的資源管理論、国際経営論→小売業の雇用や海外展開を理解する 具体的には、経営学の理論に加え、新聞・雑誌の記事や映像資料を活用することで、小売業及び店舗経営についての理解を深めます。履修者の理解度は、課題(小テスト含む)の提出と試験で評価します。また、必要に応じてレポートを提出する場合があります。	◎	○		○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	高度情報化社会における社会人が修得しておくべきICT(情報通信技術)活用技能に焦点をあて、講義、演習を通じて知識の理解と技術の修得を図る。・インターネットの各種脅威を知り、情報資産を守るための対策について理解する。・Microsoft Wordの機能を活用した、見栄えのよい文書を作成方法を修得する。・Microsoft Excelの機能を活用した、各種表計算、データ処理方法を修得する。	・インターネットの脅威から情報資産を守るための対策を講じることができる。 ・Microsoft Windowsの基本操作をマスターする。・Microsoft Wordを使って各種文書を作成できる。・Microsoft Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。・Microsoft Excelで作成した表やグラフをMicrosoft Wordに取り込むことができる。	◎	◎		○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では、コンピュータの基本操作、Webによる情報検索、セキュリティ、ファイルシステム、Word、Excel、PowerPointなどの基本操作方法と活用方法を学び、Microsoft Officeを社会生活や学生生活に於ける研究活動等に利用していくための基礎知識を身につける。企業SEとしての経験を活かし、実務に近い演習を行う。	1.基本的なコンピュータの操作ができる。2.Webによる様々な情報検索と電子メールの活用ができる。3.Wordを用いて、簡単なビジネス文書が作成できる。4.Wordを用いて、オリジナルPOP広告が作成できる。5.Excelを用いて、簡単なデータ分析表・グラフが作成できる。6.PowerPointを用いて、効果的なプレゼンテーションができる。	○	◎		○
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では様々なビジネス(実務)場面での活用を想定した情報通信技術(ICT)活用の手法を学ぶ。スモールビジネス立ち上げ収益を上げるまでを仮想的に体験する等の設定で、実践的な演習を行う。必要なリスク管理を行いつつ①情報収集、②情報整理、③企画、決定、④情報発信、⑤効果の測定、⑥行動修正、などのサイクルでの課題解決を求めると、これら課題解決に必要なPC技能(ワープロ、表計算ソフトなど)の演習を行う。	1. 他人の権利、自分の権利、どちらも尊重した上でICTを活用できる。2. ICTを活用して必要な情報の収集・整理を行うことができる。3. ビジネスに有用な意思決定・分析の手法を活用できる。4. グループワークにおいて適切な意思疎通の手法を活用できる。5. ワープロ、表計算ソフトなどの操作に習熟することができる。	○	◎		◎
領域 科目 群	ビジネスとICT	2年生	後	本講義では、ICTの歴史や技術要素についてやコンピュータの基本操作、Webによる情報検索、Excel、PowerPointなどの基本操作方法と活用方法を学び、社会生活や学生生活に於ける研究活動等に利用していくための基礎知識を身につける。また、プレゼンにおける資料のデザインや発表の態度なども身につける。	Webから効率的に情報収集できるとともに、注意すべき事項を理解できる。Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。Excelを使って、適切な表やグラフを作成することができる。PowerPointを使って、適切な資料を作成することができる。	○	◎		◎
領域 科目 群	ビジネスのデザイン	2年生	後	本講義はビジネスプランを作成することを目的に授業を進めます。内容はビジネスアイデアの出し方、テーマ決定、ビジネスの概要、マーケティング計画、投資計画、資金調達計画、収支計画、販売計画、リスク管理、実行計画を作成できるよう授業を進めます。講師は創業セミナー講師や創業計画やビジネスプラン作成指導、すでに事業を行っている事業者に対しての事業計画策定支援も行っています。これからビジネスを考えるにあたり必要な考え方やビジネスプラン作成に必要な知識を解説しながら模擬ビジネスプランの作成を行います。自分自身の特徴をしっかりと掴み、どんな場面でも自己PR、事業PRができることを目指します。	1)新規性、独創性、市場性のあるビジネスアイデアが出せるようになる2)アイデアを絞り込むための評価基準がわかる3)各種計画が作成できるようになる4)世の中の動きや経済動向等に興味を持つようになる5)最終的にビジネスプランが作成できる	○	◎		◎

領域 科目 群	スポーツビジネス	2年生	後	スポーツビジネスでは、実際のプロスポーツ球団の運営について学んでいきます。福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、ギラヴァンツ北九州、ライジング福岡等の在籍のプロ球団とは、ホーム戦におけるイベント企画でコラボレーションしたり、ファンクラブ増員企画を提案したりした経験を持つ教員が、今年度はまた新しいプロ球団とのネットワークを構築していきます。皆さんはFリーグについてご存知ですか？本講義では、フットサルという競技の特性、歴史、リーグ構成、球団の成り立ち、運営の現状や課題について具体的に踏み込んで考える内容の濃い授業を目標とします。また、球団に対する企画書を作成して実際に提案することを目標とします。	□日本のプロスポーツリーグについて概要を説明できる。□北九州に存在するプロスポーツ球団について少し詳しく説明できる。□Fリーグ及びボルックパレットが抱える課題を抽出できる。□その課題を解決できる(かもしれない)企画を立案できる。□企画書を作成して球団に提案できる。	○	◎	○
領域 科目 群	スポーツコーチング	2年生	後	新たな時代のスポーツのコーチングは、単に専門的な技術を教えるだけにとどまらず、人間としての態度や行動などが幅広く求められている。本講義では、日本スポーツ少年団の指導者育成の講師、障害の有無にかかわらず子どもから高齢者までのスポーツの指導に携わってきた経験を活かした授業を展開する。さらには、スポーツの意義や価値、社会に求められている背景と役割等を学びながら、スポーツコーチングの基本について理解を深めていく。	①スポーツコーチングとは何か理解する。②コーチとして態度や行動がどうあるべきかを理解する。③実施の現場で、より良いコーチングができることを目指す。	○	◎	◎
領域 科目 群	スポーツビジネス実践	2年生	後	本授業では、実際のプロスポーツ球団が抱えている課題について、学生ならではの感性で考えていきます。私は例えばFリーグに関しては、選手の指導や育成、ホーム戦への集客イベント等を過去に何度も経験しており、それらのことを通じて直接球団中枢の役員とも具体的に話ができる人脈を有しています。そこで皆さんには、1) スポンサー獲得、2) チケット販売企画、3) PR企画(SNS活用)、4) +α(ゲーム外イベント)企画、5) その他のジャンルより1つ選んで、自分なりの企画を練ってもらいます。完成した企画は授業内で球団関係者を招いてプレゼンしてもらいます。	□球団のステークホルダーについて概説できる。□プロ球団の経営改善に貢献できる企画立案にチャレンジできる。□企画をプレゼン資料にまとめることができる。□自分の企画を上手にプレゼンテーションできる。	○	◎	◎
領域 科目 群	ビジネス実務総論B	2年生	後	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に至るまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。 ・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。 ・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
領域 科目 群	金融論	3年生	前	・金融論の基礎を学ぶ。マイクロ経済学・マクロ経済学の理論を下敷きにして、金融システム、参加主体の行動、金融規制や政策の仕組みを理解します。 ・金融論を「お金について学ぶ」と認識することは間違いではありませんが、表面的です。より踏み込むならば、「お金を融通することの経済機能(お金の貸し借りがどのような経済的効果・効用があるのか?)を分析することが大切です。・教員のコンサルティング会社およびデータ分析会社での経験を基に、授業にロジカル・シンキングの視点を取り入れます。	・金融の基本機能のほか、企業や家計の金融資産選択などの金融行動の理論を習得できる。また、金融や金融商品、金融市場についての基本的な知識(金融リテラシー)の習得を目指す。	◎	◎	○
領域 科目 群	西洋経済史	3年生	前	本授業科目の目的は、ヨーロッパ世界がいかなる経緯で形成されたのか、を知ることにある。現在に続くヨーロッパ世界の出発点は中世にあり、古代世界(ギリシア・ローマ世界)が没落した結果、それとは大きく異なる原理をもつヨーロッパ世界が誕生した。本授業科目では、古代世界没落の要因を探るとともに、中世世界の形成過程及びその特徴を考察する。以上の内容を、社会・経済的視点から分析する。授業は、講義方式(対面授業)で行う。教科書を使用し、その内容・順序に沿って授業を進める。毎回の授業では、授業レジュメを使用する。	(1)ヨーロッパ世界の形成過程を知ることによって、現在のヨーロッパ世界の特徴を理解することができる。(知識・技能)(2)日本とヨーロッパの歴史を比較することで、日本の社会・経済を相対的に見る視座を身に付けることができる。(主体性・協働性)(3)高校(地歴・公民)・中学(社会)の教職を志望する場合、必要な専門知識を習得することができる。(知識・技能)	◎		○
領域 科目 群	地域経済論	3年生	前	本科目は、「広義の地域経済学」の入門程度の内容を扱う。ここでいう「広義の地域経済学」は、およそ「狭義の地域経済学」と「都市経済学」から構成される。このうち、「狭義の地域経済学」は、地域の経済構造や経済成長を分析しつつ、地域の経済問題(地域間経済格差など)に対する政策を論じようとする。主に第二次世界大戦後に発展した経済学の一分野である。他方、「都市経済学」は、対象とする地域を都市に絞って、都市の空間的経済構造、すなわち種々の経済活動の土地利用構造の経済学的分析を中心として、土地利用と関連して生じる都市問題を解明し政策の在り方を論じようとするものである。	まず本科目でいう「地域」とは何を指すのかを理解できる。日本の地域構造の特徴を理解し、その概要を説明できる。日本の地域別の産業構造の特徴を理解し、自分の言葉で述べることができる。日本の地域間の経済格差を理解し、なぜそういった格差が生じたのかを自分の言葉で述べることができる。日本の地域問題に対する国(中央政府)の果たしてきた、もしくは果たすべき役割を理解したうえで、客観的な論評を行うことができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	経済政策	3年生	前	経済政策は、現代社会の運営のために必要な政策である。経済政策の内容は広範囲にわたり、私たちの生活に深く結びついている。本授業では経済政策を構成する個別の政策(産業政策、国土政策、財政政策等)を含めて解説する。また、現在の日本の課題、今後の日本のあり方や方向性等についても解説する。さらに、教員のこれまでの政府、独立行政法人等の業務経験を踏まえ、様々な事例を用いて解説する。	・経済政策の概要及び推移を理解し、現在の経済政策の課題を理解できる。 ・経済政策の課題と自らの生活との関わりについて理解することができる。	○	◎	○
領域 科目 群	環境経済学	3年生	前	本講義では現代社会と環境問題がどのように関わっているかを環境経済学視点で理解し、実際にどのような環境保全への取り組みを行っているかを概観する。環境政策分析のための基礎理論や経済的手法の特徴と有効性を考察し、さらに環境問題について消費者や企業の視点から取り上げる。具体的な環境保全に向けた対策として、廃棄物政策や地球温暖化政策、及びエネルギー政策などに焦点を当てる。なお、本講座の講師は30年近く企業に対してマーケティングアドバイスを実施してきた。この経験から、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に沿った経営とはなんであるかについても環境経済学視点から講義する。	①環境問題と経済活動との関係や政策手段について学び、経済学的な思考力や分析手法を身につけることができる。②環境問題について高い関心を持ち、専門的な知識と理解を得ることができる。③現実の環境問題について習得した学習内容を発展・応用し、自分なりの解決策を提示することができる。	◎	◎	○

領域 科目 群	公共経済学	3年生	前	現在、日本は少子高齢化や巨額の財政赤字といった様々な問題を抱えている。本講義では、市場経済において政府や地方自治体などの公共部門がどのような役割を持つのか、経済学的視点から学ぶ。政府のマクロ経済政策の課題とあり方について解説し、財政赤字問題や公的年金制度の現状などを取り上げる。また、それらを経済循環として表現する方法にも焦点を当てた上で、財政政策の効果や分析手法を学ぶ。なお、プリント(ユニバで配布予定)とOHCを利用して講義を進めます。	①公共経済学の理論的基礎を学び、日本経済の抱える問題に対して自分なりの考えを持つことができる。②公共政策の現状と課題について具体的に説明できる。③様々な政策課題に対して問題意識を持ち、その解決策を提案できる。	◎	○	
領域 科目 群	租税制度	3年生	前	当講義では、日本の税制について、税目ごとに、拠り所となる考え方、基本的な機能と具体的な算出の仕組みについて学ぶ。教科書を基本としつつ、必要に応じて配布する最新の制度改正についての資料や諸外国との比較に関する資料も利用しながら講義を進める。なお、関連科目である「財政学」とは共通の項目も取り扱うが、「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用した税制の経済効果の考察に重きを置くのに対して、当講義「租税制度」においては、各種税制の実際の制度内容について理解することを重視する。	・わが国の租税制度の内容や課題に関する新聞記事を理解できる。・当該記事の論点を整理するのに必要な見識を習得している。	◎	○	
領域 科目 群	スポーツマネジメント	3年生	後	本講義では、文部科学省が推進する総合型地域スポーツクラブの設立・運営に、地方自治体担当者、同事業に取り組むNPO法人代表としてかかわった経験を活かした授業を展開する。授業では、今後の日本スポーツを支える「地域スポーツ」のマネジメントを中心に基本的なスポーツマネジメントを学んでいく。また、地域スポーツの現場に携わる人々が直面した問題をわかりやすく解説し、他のビジネスとの共通点や相違点等を見極めつつ、組織での問題解決の応用力も身に付けていく。	・授業に臨む真剣な姿勢を具体的な行動で示すことができる。・自分の考えを持ち、人前で発表できる。・他者の考えに興味を持って真剣に聞くことができる。・重要事項をメモに残す習慣を身に付けて実践することができる。・情報化社会に対応できる基礎力を高めることができる。	○	◎	◎
領域 科目 群	スポーツ施設管理	3年生	前	(公財)日本体育施設協会認定の体育施設管理士の資格取得を目指した講義を行う。協会の刊行する「公認体育施設管理士教本」をテキストとして用いる。味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザでの勤務経験をベースに、テキスト内容の基礎を学びながら、実際の現場での施設管理のポイントについて実例を挙げながら解説する。資格の取得だけでなく、スポーツ関連企業への就職や、公務員としてスポーツ関連部門で働く際も有益な内容を取得できることを目指す。	・スポーツ施設についての基礎的な知識を身に付けることができる。・施設の維持管理・運営についての総合的な知識が習得できる。・スポーツビジネスを支えるスポーツ施設について視野が深まる。・検定試験に合格することで体育施設管理士の資格を取得できる。	○	○	◎
領域 科目 群	近代日本経済史	3年生	前	この授業では、主として幕末期から昭和初期における日本経済の歴史的展開を対象として講義します。日本は幕末に開港したことにより、世界資本主義の一環に加わるようになりまし。そしてほどなく明治維新を迎え、欧米列強の制度や技術を取り入れ、それまで在来的な産業が中心だった産業構造の近代化を図りました。現代の情報社会は、近代の産業発展をさらに加速させたものとして位置付けることができます。この講義ではそうした見通しのもと、現代社会経済の前提としての近代日本経済の発展を学びます。またこの授業では、皆さんの学校のある北九州市の産業発展について、近代経済史の事例として講義する予定です。	近代日本経済史を学ぶことにより、欧米列強中心の世界経済、国際政治において、日本が自国の方で経済発展を成し遂げたことを説明できます。それにより、外国で活動する時、あるいは外国人に日本を説明する際に必要な基本的知識を付けることができます。また、現代における情報社会の前提としての、財やサービスの世界的なつながりの端緒を、日本を事例に知ることができます。これにより、私たちが人類史においてどの地点にいるのかを探ることができます。さらに、この授業を通じて、北九州市がかつて四大工業地帯の一角であったことを、具体的に知ることができます。	◎	○	○
領域 科目 群	東洋経済史	3年生	前	この講義では、16世紀から20世紀前半の東アジア、主に中国を中心に社会経済の歴史を解説します。特に、16世紀以降のアジア経済、特に東アジアの経済的変容過程について説明し、アジア経済を支える仕組みがどのように形成され、また、どのように変容し、アジア固有の経済発展を可能にしたのかを検討していきます。	・アジア世界がどのようにして形成されたのかを理解することができる。・本講義の理解及び専門的な知識を通じて、現代におけるアジア経済発展の要因、アジア経済における問題点を理解することができる。・経済史の視点から様々な問題にアプローチする能力を身につけることができる。	◎	○	○
領域 科目 群	行政法(作用法・組織法)	3年生	前	わが国の法律の大半を占める行政法の基礎ともいえる行政作用法を中心に学びます。1・2、7～15回は行政法の基本原理や行政作用法(行政活動をどのように法律でコントロールしていくのか)、3～6回は行政組織論(国や地方公共団体の行政はどのようなしくみになっているのか)、について解説していきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめながら、論理的に考え答えを導くことのできる能力の習得を目指します。	①行政を身近な存在として理解できるようになると共に、内閣や地方公共団体の首長や議会の運営実態をより深く理解することを目標とする。②行政処分や行政上の強制手段といった権力的行政活動のみならず、行政契約・行政計画・行政指導のような非権力的行政活動をも理解し、行政活動の領域が拡大するとともに、行政法による適切なコントロールの手法についても、事例を通じて理解し自ら判断できるようになることを目標とする。③現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断できるようになることを目標とする。	○	◎	◎
領域 科目 群	労働と法	3年生	前	企業等に就職して働いていく際に、必ず身につけておかねばならない「雇用の基本ルール」を学習する。アルバイトを含め「雇われて働く」際には、労働契約を結ぶが、雇う会社と雇われる労働者の間には、隔絶した力の差があるから、全て本人任せにすると、契約の内容＝労働条件は、労働者に一方的に不利なものになってしまうだろう。そこで、「雇用の最低条件」を保障する仕組みが必要になるが、これらを受けているのが、労働基準法を中心とした労働法である。授業では、現行ルールの大きな枠組みと、主要な判例法理を学び、あわせて、それらの背後にある、我が国の「働き方」の問題点を考えていく。	1. 雇用の基本ルールを、条文に則して、説明できる。2. どのような紛争が雇用の現場で生じ、それに対して裁判例はどのような処理をしているか、レポートにまとめることができる。3. 労働法令と判例法理の理解を通じて、①現在、どのような労働政策がとられているか、②今後どうすべきか、意見を述べることができる。	○	◎	○
領域 科目 群	環境科学	3年生	前	環境とは何か？地球の循環システムはどのようなメカニズムで機能しているか？様々な学問分野がどのような視点でアプローチしようとしているかについて説明する。地球の循環システムとしての環境と人間や社会との関わりを中心に理解できることを目指し、人間社会に関する基礎的事項である生活圏・産業圏の環境、さらにこれらに関連する法規、自然災害が人間社会に及ぼすリスクについて学ぶ。	1. 環境と人間社会との関わりについて理解し、説明できる。2. 生活圏・産業圏を起源とする環境要因と関連する法規について説明できる。3. 環境に関連する社会的事象について説明できる。	◎	◎	○

領域 科目 群	民法(親族・相続)	3年生	前	この講義では、民法のうち夫婦・親子・相続等家族関係を規律する「親族・相続」について、基本的事項および重要判例を中心に授業を行います。私たちの家族に関する出来事が、民法においてどのように規定されているかを具体的な事例を通して、また、税理士としての実務経験を活かして実践的視点からも解説を行います。なお、当該科目は、公務員試験等において出題されることが多い科目です。したがって、公務員(行政職等)を目指す学生は履修をおすすめします。	本講義は、民法(親族・相続)に関連する基本的知識の修得と今日の課題に対する考察力を養うことを目標とします。具体的には次の通りです。① 民法(親族・相続)の基本的仕組みを理解できる。② 民法(親族・相続)の基本的問題に関して認識できる。③ 具体的な問題解決に必要な民法(親族・相続)の仕組みと解釈方法を修得できる。	◎	◎	○
領域 科目 群	地方自治体の財政	3年生	前	わが国の地方財政制度は、戦前戦後を通じて中央集権の度合いが大きく、地方自治体の自由になる部分は少なかったが、2000年4月から地方分権一括法が施行されて国と地方の関係が大改革されてから20年が経過した。本講義では、国と地方の財政関係、地方財政のしくみについて説明する。	* 地方財政のしくみを説明できる。* 地方財政に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
領域 科目 群	日本経営史	3年生	前	現代の日本企業は、大きな変動期を迎えている。今後の日本経済や企業経営を考えるとき、歴史を振り返ってみることが今ほど必要な時期はないといえよう。本講義では、日本における企業経営の形成と発展の過程を、資本主義経済とのかわりて検討する。その際、経営環境としての社会経済の状況をふまえつつ、日本的な企業経営の形成を歴史的な視点から考察することにしていく。ここでは、近世から近代の時期に焦点をあてる。	日本における企業(株式会社)の歴史的な形成過程について、説明することができる。	◎	○	
領域 科目 群	管理会計論	3年生	前	現代の管理会計の技法と実務について理解する。前半では、管理会計の基礎について説明する。これによって、管理会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、経営計画とコントロール、経営意思決定のための会計について説明する。これによって、管理会計に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 管理会計の必要性について、説明することができる。2. 管理会計のフレームワークについて、具体的に述べることができる。3. 管理会計の技法について、列挙・使用することができる。4. 管理会計の技法について、経営戦略の策定に関係づけることができる。5. 管理会計の技法について、マネジメント・コントロールに関係づけることができる。	○	○	○
領域 科目 群	流通管理論	3年生	前	私たちが商品を購入するまでには、様々なモノや人が関わり、色々な段階での売買取引を経て流通し、私たちの手元に届いています。本講義では、流通政策の概念や形成メカニズムについての基礎的な説明をしたうえで、日本における流通政策の特徴とその意義を中心に学び、国による流通政策の違いとその背景を明確に理解することを目指します。	・流通管理、流通政策に関する重要な用語と内容について理解することができる。・授業で学ぶ流通管理の内容が実際ではどのように行われているのかを理解することができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	ビジネスコーチング	3年生	前	・コーチング研修を企業等で行っている経験を活かし、実務に近い演習も行う。・企業経営者として、人材育成の実践経験を踏まえ、実例をあげながら授業を行う。・コーチ資格(CPCC)保持者として、高いクオリティのコーチング実演を行う。	・コーチングの基本的な概念を理解できる。・コーチングの基本的なスキルを伝えるようになる。・コーチングを活かしたチーム運営ができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	経営者論	3年生	後	企業経営をよりよく理解するために、実際に企業を経営している方や事業を行っている方の話を聞くことはきわめて有益である。本講義では、第一線で活躍されている経営者の方が講師となる。その内容は、どのような経緯で経営者となったのか(自分史)、経営理念、経営者として必要なことなどである。本講は、土曜日の2～4限に集中講義形式で実施する。	1. 企業経営の最前線を知ることができる。2. 経営者としてどのような素養が必要であるかを知ることができる。3. いわゆる「経営力」とは何かについて理解することができる。		◎	○
領域 科目 群	経営戦略論	3年生	前	「経営戦略」は、企業組織が自身を取り巻く環境状況(の変化)に適応しながら「長期的な生存および成長」を実現するための「指針」あるいは「選択」を意味します。本講義では、企業(グループ)全体の存続と成長の指針となる「全社戦略」、また個別事業レベルにおける競合他社に勝つ方法を扱う「競争戦略」、また近年注目を集めている「利益獲得の方程式」としての「ビジネスモデル」の問題等を取り上げ、現実の企業行動事例をできる限り豊富に交えながら、「優れた戦略」とは何か(その条件)、またそれを生み出すための方法や考え方(理論)について解説していきます。	・経営戦略領域における基本学説の目的と内容、それぞれの長所/短所について説明できる。・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動の諸事例について、その理由・ポイントを説明することができる。・経営学検定試験(初級:大学生修得レベル)における「経営戦略」分野の必要知識のうち70%を習得することができる。	◎	○	
領域 科目 群	マーケティング論	3年生	前	商品を作るだけではなく、消費者に買ってもらうなければ意味がありません。マーケティングとは、簡単に説明すると商品を売るための作戦・仕組みづくりを考えることです。本講義では、マーケティングにおける基礎概念を中心に説明し、マーケティングの意義、代表的なマーケティング戦略手法について事例を通して学んでいきます。	・マーケティングに関する重要な用語と内容を理解することができる。・理論と事例の両面からマーケティング活動の内容や現状、さらには諸問題を包括的に学ぶことで今日のビジネス・パーソンに求められる知識を習得することができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	経営組織論	3年生	後	本講義では、現代社会を支える重要な基盤としての(企業)「組織」について、その基本論理(主要学説)について解説するとともに、現代(日本)企業が直面する組織の諸問題について考えていきます。具体的な内容として、モチベーションとリーダーシップ、組織的意思決定等を基本とする「ミクロ的組織課題」から、多様な組織構造のデザイン(職能部門制、事業部制等の組織構造の基本型から持株会社制やネットワーク組織まで)とその進化について考える「マクロ的組織課題」まで幅広く取り上げて解説していきます。また、学習成果を活かす場としてのチーム演習型の授業回(所定のテーマに関するチーム討議)等の機会も設定しています。	・習得した組織理論(モチベーション、リーダーシップ、組織デザイン等)を用いて身近な問題解決に貢献したり、新聞・雑誌等に掲載された企業事例についてその理由・ポイント説明できるようになる。・経営学検定試験(大学生修得レベル)の「経営組織」領域に関する知識の70%程度を習得することができる。・グループ・ディスカッションなどの方法を学び、それを効果的に実践することができる(状況により変更の可能性あり)。	◎	○	○
領域 科目 群	スポーツビジネスインター シップ	3年生	前	スポーツアドバイザー及びスポーツビジネス関連会社の経営者としての経験や人脈を生かした演習型の授業です。プロスポーツ球団経営における実務体験を含む内容となっており、特にリーグ関連の最新情報に触れることができます。地元北九州から「昇格へチャレンジ中のギラヴァンツ北九州とコラボレートして学びを深めていくことができます。球団運営に関する研修プログラムを体験することで、「自分が」球団職員の一員として責任ある業務を果たすだけの能力を持っているかについても判断することができます。担当者(森部、下田)	□ 報告・連絡・相談・確認・準備・指示等のビジネス実務能力を身につけることができる。□ 状況を判断しながら質問したり、議論したりすることができる。□ 根拠を持って自分の意見を述べるができる。□ 与えられた課題や業務について遅滞なく適切に対処することができる。□ イベントにおいて担当した業務の報告書をまとめて後輩にお手本を示すことができる。	○	◎	◎

領域 科目 群	サービス実務総論	3年生	前	サービス業に従事する人材として、求められる資質・知識・接遇・接客マナーなどを理解し、実践的に活用できるおもてなし能力を育成する	・サービススタッフの心構えが理解できる・サービススタッフの専門知識が理解できる・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを学び、実践できる	○	◎	◎
領域 科目 群	ビジネス実務演習A	3年生	前	日本人はサービスに対する考え方が、他の国とは少し違い、サービスをビジネスとして考えることに慣れていないからかもしれません。「ビジネス実務演習A」「ビジネス実務演習B」では2つの異なるタイプのサービスについて説明します。「ビジネス実務演習A」では、「いわゆる」サービスの事例が取り上げられています。ここでは、だれもが日常的に体験できるサービスの特徴を学びます。サービス特有の性質を学ぶことにより、いかにサービスが経営に結びついているかをわかりやすく説明します。「ビジネス実務演習A」ではサービスの基本的な概念を、はじめに理解することで「ビジネス実務演習」全体の概要を理解します。	本講義は講義と演習形式です。講義で、学生は教員のレクチャーによってサービス・マネジメントの理論を理解します。演習で、学生は各章にあわせた課題にグループで取り組み発表をします。多様化しているサービスについて、まず、職業そのものを理解し、その中からサービスの特徴を捉えなおし、経営のキーポイントを理解し、サービスを中心にビジネスを考える面白さを感じ、将来、その分野で優秀なリーダーになるための理論を学ぶよう工夫します。皆さんが日常、接しているサービスの裏側にある仕掛け、仕組みを観察することによって、将来、実際に職業についたとき、より高いレベルのサービスが出来るようになることが目標です。	○	◎	◎
領域 科目 群	ビジネス法務	3年生	後	現代はビジネスにおいて、あらゆる場面で法律が関わっており、法律を守りそれに従って行動することが求められています。本講義では、皆さんが社会に出て仕事に携わる場合に最低限必要とされる基本的な法的知識を身につけてもらい、企業やそこに従事する構成員としての従業員が守らなければならない法律の基本を習得していきます。基本的にテキストに沿って講義を進めていきます。	①職場で必要となる実践的な法律知識を説明できる。②ビジネスの実務と各法律の連携を説明できる。③経営や業務に必要な問題意識をもち実践できる。④法的トラブルを未然に回避する基礎能力を養うことができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	国際金融論	3年生	後	グローバル化した今日の世界経済では、「モノ」「ヒト」「カネ」「情報」が、国境を越えて行き来している。その中でも、「カネ」すなわち資金の国際的な移動は、世界経済に大きな影響力を持っている。本講義の目的は、国際金融取引の基礎知識を学習して、国際化した社会に対応できる素養を身につけることである。本講義の内容は、外国為替レート、国際収支表の概要、貿易取引の実務、為替レートの決定要因、為替レート変動の影響、国際収支の決定要因などである。	本講義の到達目標は、①国際金融にかかわる報道や平易な内容の文献が理解できること、②社会人として国際金融にかかわる問題に直面したときに、自ら対応を考え、人と議論して解決を提示できるようになること、である。	◎	○	○
領域 科目 群	人的資源管理論	3年生	後	人的資源管理は、経営資源である「ヒト」を対象にし、彼ら・彼女らが持つ能力を最大限に引き出すことで企業の利潤拡大に貢献する。本講義では基本的な理論に加え、新聞、雑誌の記事、映像資料(経済番組のオンデマンド配信や関連するyoutube動画を含む)及び研究動向を取り上げること、理論と実践を統合した複合的視点を構築を目指す。なお、講義はパワーポイント(下記の参考書より作成)を使用する。講義前日にUNIVERSAL PASSPORTにアップロードするので、各自講義開始までに講義資料をプリントアウトすること。	・人的資源管理の用語の意味を理解または説明できる・管理の歴史を理解する・日本企業の人事制度について理解または説明できる・日本企業の特殊性を理解する・現代社会における働き方の変容を理解または説明できる上記の目標は各種テスト及び課題レポートより評価する。告知はUNIVERSAL PASSPORTで行う。	◎	○	○
領域 科目 群	都市経済学	3年生	後	ミクロ経済学の基本的な概念を復習しつつ、その知識を用いながら、私たちの社会に存在する「都市」がなぜ存在し、どのように作り出され、そこではどんな問題が起こっているのかについて専門的に学んでいく講義である。	都市経済学の意義でもある「都市(あるいはその地域)だから生じる経済現象」について論理的に説明でき、そこで得た知識をもとに皆さんが主体的に「あるべき街の理想像」や「様々な都市で発生する経済問題に対する解決策」について論じることができるようになることを目標とする。	◎	◎	○
領域 科目 群	社会保障論	3年生	後	第二次大戦後、社会保障の充実が先進諸国の経済政策の目標として大きく掲げられるようになり、「福祉国家」が実現したが、その反面、財政規模は拡大し、大きな政府の弊害と社会保障のネガティブな経済効果が問題視されるようになり、現在では、社会保障の見直しが論じられるようになった。本講義では、社会保障の創成から現代に至る流れを概観したうえで、わが国の社会保障制度の現状と課題について、財政学の観点から説明する。	*社会保障のしくみを説明できる。*社会保障に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
領域 科目 群	国際経済学	3年生	前	2国2財生産要素モデルを用いて、自由貿易が望ましいことを説明します。また、自由貿易が実現していない時には、その代替として直接投資が見られます。どのような国に多くの直接投資が行われるのかを説明します。	・国際経済関連のニュースに関心を持つことが出来るようになる。	◎	○	
領域 科目 群	税務会計論	3年生	後	現代の税務会計の技法と実務について理解する。前半では、法人税の概要について説明する。これによって、税務会計に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、法人税の計算について説明する。これによって、税務会計に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 税務会計の必要性について、説明することができる。2. 税務会計のフレームワークについて、具体的に述べる事ができる。3. 税務会計の技法について、列挙・使用することができる。4. 税務会計の技法について、税制改正の背景に関係づけることができる。5. 税務会計の技法について、タックス・プランニングに関係づけることができる。	○	○	○
領域 科目 群	経営管理論	3年生	後	経営学における経営資源は、ヒト(人的資源)、モノ(物的資源)、カネ(貨幣的資源)の3要素があります。本講義では、経営管理の基礎と経営資源の中のカネ(貨幣的資源)と経営について、企業経営における消費税との関わりを中心に実務上の課題と解決策を学びます。	・経営管理や税法に関する基礎知識を身につけ、ケースにより最適な税務経営戦略を選択することができる。・講義で学んだ経営管理や税務経営戦略の基礎的な用語の意味を理解し、自分の言葉で説明することができる。	◎	◎	○
領域 科目 群	財務管理論	3年生	前	現代の財務管理の技法と実務について理解する。前半では、財務の基礎、財務分析と資金管理について説明する。これによって、財務管理に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、投資決定と企業価値、資金調達とペイアウト政策について説明する。これによって、財務管理に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 財務管理の必要性について、説明することができる。2. 財務管理のフレームワークについて、具体的に述べる事ができる。3. 財務管理の技法について、列挙・使用することができる。4. 財務管理の技法について、資本調達とペイアウト政策について説明する。これによって、財務管理に関する各論的な知識を得ることができる。	○	○	○
領域 科目 群	地域とスポーツ	3年生	後	福岡県内のスポーツビジネスのあらゆるジャンルのテーマを挙げ、その中からそれを構成する組織や企画意図などを推察し、実際に取材などで検証し、最終的に業務企画書などにまとめる。スポーツビジネスの仕組みなどを研究する。オリジナルのイベント企画書の作成など。	業務企画書の作成方法、取材方法などを会得することができる。個人(もしくはチーム)で情報収集した後、企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。	○	◎	◎

領域科目群	スポーツと法	3年生	後	スポーツに関連する事故・紛争にはどのようなものがあるのだろうか。また、それらを回避するにはどのような対策や解決方法があるのだろうか。地方公務員としてスポーツ振興やスポーツ施設の建設・管理等のほか、NPO法人代表としてスポーツ施設の管理運営にかかわってきた経験をもとに授業を展開する。また、スポーツにかかわる者が直面する人権問題等を、具体的事例を参照しながら解説を加えて、スポーツと法との関係を整理しながら授業を進めていき理解を深める。	・授業で取り扱う基本的事例について、その論点を理解して問題の所在を的確に把握できる。・問題に対しての自分の意見をまとめることができる。	○	◎	○
領域科目群	企業と社会	3年生	後	本講義は、現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを第1の目標とします。一方、企業を取り巻く環境は激しく変化しており、産業界や学会では、新たな経営手法やスキームが次々と開発されています。そこで、企業の事例を踏まえながら、主要概念と用語を講義・解説するとともに、産業界の新トレンドを解説していきます。	1.経営体や経営学の全体像がわかる。2.経営学の基礎知識や最新知識(概念・用語)が習得できる。3.産業界のトレンドが理解できる。	◎	◎	◎
領域科目群	産業組織論	3年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■産業組織論は、産業全体としての成果を、次の視点から分析するものです。(1)企業の行動(2)市場構造(3)企業組織(4)政策 それぞれの回が以上4つのどれにあたるのか意識しながら学ぶことで、経済を分析する視点が身についていくはず。入門とは違い、主に数式による分析を進めていきます。	1.企業の独占や複占が生じる環境とその帰結を理解できる 2.企業を、人が集まる組織として理解できる 3.様々な経済状況をゲームとして表現することができる 4.企業を取り巻く政策が企業行動に及ぼす影響を理解できる		◎	○
領域科目群	交通論	3年生	前	・公務員、交通事業者、NPOの職員として交通に必要な知識を習得し、専門家養成を目指す。・交通が抱えている問題を認識し、人口減少に向けた持続可能な移動手段構築などの各種問題について、具体例を挙げつつ説明する。	・人口減少に向けた持続可能な交通に必要な基本的な知識を習得し、交通の専門家として問題解決の技術手法を身に付けることができる。・人口減少に対して交通問題を解決するために、交通に関連する知識を用いて、論述できるようになる。	○	◎	
領域科目群	ゲーム理論	3年生	後	ゲーム理論は数学に基づいた学問であることに留意してください。授業は簡単な説明の後、あてられた人が練習問題を解くという形で進めていく予定です。ゲームは非協力ゲームにおける同時手番と逐次手番について練習問題を行なう予定であることを理解した上で参加してください。	ゲームを自分で作成できる能力を持つことができる。自分で作成したゲームを自分で解くことのできる能力を持つことができる。	◎	◎	
領域科目群	会計監査論	3年生	後	現代の会計監査の理論と制度について理解する。前半では会計監査の必要性および会計監査の制度について説明をする。これによって、会計監査に関する総論的な知識を得ることができる。後半では監査基準の体系、監査手続、監査報告書の構成について説明する。これによって、会計監査に関する各論的な知識を得ることができる。	1. 会計監査の必要性について、説明することができる。2. 会計監査の制度について、具体的に述べることができる。3. 監査基準の体系について、説明することができる。4. 監査手続について、監査要点と関係づけることができる。5. 監査報告書について、作成・解釈することができる。	○	○	○
領域科目群	医療・福祉マネジメント	3年生	後	教員の実務経験としては、看護師として10年以上の経験と社会福祉士として在宅の福祉分野で8年経験をしており、医療と福祉の両分野を実務しておりましたので、経験に基づいた講義を行います。医療と福祉のマネジメントに必要な社会保守制度の概要を理解できるように、わかりやすく解説いたします。また医療・福祉の分野では、医療知識や関係法規など専門的・高度な知識が求められます医療・福祉分野の特殊性を十分理解できる内容を教示いたします。医療福祉の業界は日々変化しており、医療福祉マネジメントでは医療福祉の現状と政策に加え、事例でのリアルな講義を行います。	・社会保障を学ぶことで、社会人として社会に目を向けた生き方、日本社会の持つ課題を知ることができる。・福祉の各分野を学ぶことで、日本社会実情や社会の動きを知ること、社会貢献することの意義を知ることができる。	◎	◎	◎
領域科目群	行政法(救済法)	3年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■行政に関する知識は、私たちが社会生活を営み仕事をしていくうえで必ず必要になるものです。本講義では、違法・不当な行政活動があった場合、私たちはどうしたらいいのか、不服申し立て手段、取消を求めるにはどうしたらよいか、さらには、国家賠償、損失補償制度について学ぶ。	・基本的な論点14個について、その論点を理解し、・問題の所在を的確に把握し説明できるようになる。	○	◎	◎
領域科目群	生産管理論	3年生	後	1. 日本が開発した科学技術とそれを基盤とした産業について学ぶ。2. 日本の科学技術と産業の歴史を理解する。3. 日本の科学技術と産業が世界に及ぼした影響について理解する。4. 日本のものづくりを生産管理の理論と実践の観点から学ぶ。	1. 産業技術の基礎が理解できる。2. 日本の基幹産業のひとつである自動車産業の歴史と現状が理解できる。3. 持続可能な社会が求める産業技術の在り方を理解できる。4. 生産管理の基本的知見を獲得する。	◎	◎	◎
領域科目群	ビジネス実務演習B	3年生	後	第3次産業の比率は毎年増え続けており、おそらく、10年後には日本の総労働人口の80%を超えるのではないかと予想されている。[ビジネス実務演習B]では、モノとサービスによって価値が生み出されている事例を取り上げる。モノとサービスを対立するものとして考えるのではなく、その相乗効果によって新たな価値を創造する為の仕組みや仕掛けを説明する。モノとサービスという今までは2分的に区別されてきた概念を同時に考えるのは、一見、わかりにくいと思うであろうが、本講義で紹介する事例を学べば、モノだけでなく、サービスだけでも生まれない価値が存在し、それがビジネスとして成立していることが理解出来る。	・学生同士および教員とのインタラクションを通じ、活発な議論を展開することができる。・サービス・マネジメントの理論を理解し、各章にあわせた課題にグループで取り組み、発表をおこなう。・多様化するサービスについて特徴を捉えなおし、経営のキープポイントを理解することができる。・サービスを中心にビジネスを考える面白さを感じ、その分野で優秀なリーダーになるための理論を学べるよう工夫することができる。・サービスの裏側にある仕掛け、仕組みを観察することにより、将来、実際に職業についたとき、より高いレベルのサービス経営ができる。	◎	◎	○
領域科目群	サービス実務演習	3年生	後	サービス業に従事する人材として求められる資質、知識、接客、接客マナーなどを理解し、実践的に活用できるおもてなし能力を育成する。プリントやDVDなどを使ってサービス業界の理解を進め、さらに演習を交えることで体験型の修得も目指す。	・サービススタッフの心構えを理解できる・サービススタッフの専門知識を理解できる・サービススタッフの言葉遣いや立ち居振る舞いを理解し、実践できる・ビジネス電話検定A級に合格できる・サービス接客検定準1級に合格できる	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップA【ステ企】	1年生	前	本授業では、スポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報教材開発経験を生かして、主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。その手法としてCPBL(Project or Problem Based Learning)を用いて、体験を通じてながら学んでいきます。ワークショップA→B→C→Dと発展させていながら、Dにおいては相当のレベル(学外で十分に通用するレベル)のビジネス実務能力を身に付けることを目指します。	1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。		○	◎

実践科目群	ワークショップA【ステ公】	1年生	後	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を志す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、様々な研修等を通して知識及び技術を身に付け、ワークショップBにおいて取り組みべき真の社会貢献を考えていきます。担当者(森江、入江)	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができます。②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができます。③社会貢献マインドを養うことができます。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができます。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップA【セバ】	1年生	後	本授業は、1年次という早い時期からイベントの企画やそれら実際の運営に携わるなど社会体験を増やすために用意された能動的学修(アクティブ・ラーニング)のひとつである。地域連携・地域貢献をテーマとして、用意されたプロジェクトから複数選択し、課題解決の意識を高める機会を提供する。問題基盤型学習やサービスマーケティングなどを取り入れて、前に踏み出す力の涵養に力点を置いておこなっていく。	1. 地域住民の生活課題について、具体的に説明することができる。2. 地域連携・地域貢献活動の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、推論できる。3. 社会体験・地域イベントの効果について、地域活性化と関係づけることができる。4. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。5. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
実践科目群	ワークショップA【ステ教】	1年生	後	教員としての経験を活かし、授業を展開する。本授業は講義および実習形式で実施する。教師になるということをいまいっちょ間いなおし、学外実習(スクールヘルパー)を行い、自らの考えを深めることを目的とする。学外実習は北九州市立立小中学校でのスクールヘルパーを予定している。学外実習前には、事前学習を行い、理解を深める。スクールヘルパー経験者(先輩)の話や、実習計画を立て実習先をみずから選定する。実習後は実習の内容および成果をまとめて、報告し振り返る。	1 教師になるということについて考えを深めることができる。2 経験に基づいて考えを構築し表現することができる。3 表現力を高めることができる。4 コミュニケーション能力・調整能力を高めることができる。5 課題を発見し、解決策を考えることができる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップB【ステ教】	2年生	前	この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての基礎的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、2年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採るので、1年次のワークショップAを修得せずして2年次のワークショップBは履修できない。教員としての経験を活かし、授業を展開する。必修科目ではないが、教職を希望する気持ちのある者はぜひ、履修してほしい。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2 なぜ、教職に就こうとしているのか、説明ができる。3 教職に携わる者の心構えについて考えることができる。4 教員としてのベースとは何かについて考えることができる。5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)が理解できる。6 学校現場体験で教職についての魅力を実感できる。	○	◎	◎
実践科目群	ワークショップB【セバ】	2年生	前	ワークショップBセバレート方式は、演習形式で行います。指導教員は実業家としての経験を持ち、これまでに多くの企業と様々な案件でコラボレーションしてきました。そのうち、企業や企業が取り扱う商品やサービスのブランディングに関して、特に知的財産権の取得や強化は重要な仕事でした。これからの時代においても知的財産権については、ビジネスの世界において重要性を増していくものと思われます。受講者の皆様には知的財産権を理解して、自らも商標や意匠、特許等を取得できるように頑張って欲しいと思います。授業では、実際に取得を目指してのアイデアを考案していく取り組みをします。	□出席管理及び活動内容のチェックができる□毎回の課題を正確にクリアできる□終了した課題を他の受講者に対してプレゼンテーションできる□自分が考案したアイデアを外部に対して発信できる(コンテスト応募等)	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップB【ステ公】	2年生	前	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を志す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があります。本科目では、ワークショップAにおいて学んだ知識をもとに、ボランティア活動等を実際に行い、社会貢献マインドを養ってください。担当者(森江、入江)	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができます。②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができます。③社会貢献マインドを養うことができます。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができます。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップB【ステ企】	2年生	前	ワークショップAを発展させながら主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。本授業はスポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を用いて、体験を通じながら学んでいます。ワークショップC-Dと発展させる基礎的な段階にあたりませんが、積極的に学外でのチャレンジ(ビジネスプランコンテスト等への参加)も行います。	1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。(5)Aを超える学習の成果を残すことができる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップC【ステ教】	3年生	前	教員としての経験を活かし、授業を展開する。この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての実践的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、3年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採るので、2年次のワークショップBを修得せずして3年次のワークショップCは履修できない。実習時間は学年が上がるにつれて多くなる。	1 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2 なぜ、教職に就こうとしているのか、はっきりと説明ができる。3 教職に携わる者の心構えについていろいろな角度から考えることができる。4 教員としてのベース(基礎・基本)とは何かについて深く考えることができる。5 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)がよく理解できる。6 学校現場体験で教職についての魅力を実感できる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップC【セバ】	3年生	前	ワークショップCセバレート方式は、演習形式で行います。指導教員はこれまでに実業家や研究者としての経験を生かして、多くの企業や行政団体とコラボレーションしてきました。そのうち、地方創生や地域貢献に関して、特に福岡県や福岡市の健康増進イベントにプランを入札したり、イベントブースの出店をしたりした他、地元北九州では過去9年間継続して高齢者に対する健康教室を担当してきました。本授業では、この高齢者に対する健康教室イベントの内容を復習し、ブラッシュアップさせる活動に取り組みます。	□出席管理及び活動内容のチェックができる□毎回の課題を正確にクリアできる□終了した課題を他の受講者に対してプレゼンテーションできる□自分が担当した業務をマニュアル化できる	◎	◎	◎

実践科目群	ワークショップC【ステ企】	3年生	前	この科目は、公務員等志望者対象ワークショップです。講義と実習から構成されます。警察官や消防官、県や市の行政職員といった公務員等の職業は、地域住民が、快適で安心して安全に暮らすことのできる生活環境をつくるために、地域のために働く極めて社会貢献性の高い職業です。したがって、将来、公務員等を志す人は、社会貢献マインドを身に付ける必要があるため、ワークショップA、Bにおいて学んできました。身に付けた社会貢献性をもって自治体、警察、消防等のインターンシップに参加し、さらに職業意識を高めていきましょう。また、引き続き社会貢献活動も行います。担当者(森江、入江)	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップC【ステ企】	3年生	前	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形で行われる。ワークショップCでは、ワークショップA、Bで行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習していく。スポーツ、イベント、地域活性化、食などをテーマに、学生の立場でどんな役割が演じられるのかを考えていく。(ステップアップ方式では、1年次のA→2年次のBの履修者のみCを履修できる。	・ワークショップとはなにかを理解できる。・相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる。・イベントの裏方の重要性や役割について理解し、体験することができる。・地域の問題に感心を持ち、それを解決する方法について考えることができる。・チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ企】	4年生	前	ワークショップは経験を通じた学習であり、受け身で授業を聞くのではなく、自ら考え能動的に動く形で行われる。ワークショップDでは、ワークショップA、B、Cで行った活動を基に、自ら社会で起きている問題や課題に対して、どのように解決していくのかを考え、実践を通じて学習していく。スポーツ、イベント、地域活性化、食などをテーマに、学生の立場でどんな役割が演じられるのかを考えていく。(ステップアップ方式では、1年次のA→2年次のB、3年次のCの履修者のみDを履修できる。	・ワークショップとはなにかを理解できる。・相手の意見を聞くこと、自分の意見を主張することができる。・イベントの裏方の重要性や役割について理解し、体験することができる。・地域の問題に感心を持ち、それを解決する方法について考えることができる。・チームで課題に取り組むことの重要性を理解し、それに沿って行動できる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【セバ】	4年生	前	この講義は社会体験学習として、スポーツをはじめとするイベントや、地域活性化への取組に対する理解を深めてもらう。スタッフとしてイベントを体験しながら、裏方の役割の重要性や具体的な業務内容を理解し、また地域の抱える課題や歴史についても現場で学べる時間を設けたい。大学で学んだ経済学の実践の場として知識やスキルを身につけてもらう。	・経済学における実践的な活動がわかる。・チーム活動やスタッフの役割が理解できる。・地域を活性化するための様々な活動について理解できる。・スポーツを通じた街づくりについて考え、提案を行うことができる。	○	○	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ教】	4年生	前	教員としての経験を活かした授業展開とし、この科目は、講義と実習とで構成される。講義では、教職を目指すものの心構えや教職についての基礎的な知識を修得する。実習では実際の学校現場体験から、教育を行う側の感覚を味わう。この双方を通して、4年次の教職への希望(意識)を自己の真摯な目的意識へと高めていくのがねらいである。この科目はステップアップ方式を採るので、3年次のワークショップCを修得せずして4年次のワークショップDは履修できない。必修科目ではないが、教職を希望する気持ちのある者はぜひ履修することを勧める。	1. 教職の魅力について、自分なりの説明ができる。2. なぜ、教職に就こうとしているのか、説明ができる。3. 教職に携わる者の心構えについて考えることができる。4. 教員としてのベースとは何かについて考えることができる。5. 教職の基本的な仕組みについての授業(講義)が理解できる。6. 学校現場体験で教職についての魅力を自覚できる。	◎	◎	◎
実践科目群	ワークショップD【ステ企】	4年生	前	ワークショップA～Cにおいて、社会貢献活動に取り組んできましたが、本科目では取り組んできましたが、本科目では取り組んできた社会貢献活動について概念化していきます。まず、これまでの活動を分析し、課題や今後の可能性、特徴を整理します。次に、この授業を通して果たしたい役割を明確化し、PDCAを回しながら最後の社会貢献活動に取り組んでいきましょう。概念化したものについては、学生研究報告会における発表や、卒論、ゼミ論につなげることを目標とします。担当者(森江、入江)	①社会貢献活動について知り、その活動の目的について理解することができる。②大学生として自分たちができる真の社会貢献について考えることができる。③社会貢献マインドを養うことができる。④社会貢献活動におけるルールとマナーを身に付けることができる。⑤公務員等社会貢献性の高い職業に就こうとする意欲が高まる。	○	○	◎
実践科目群	研究会A(簿記3級①)(前半)	1年生	前	大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を増すことになり就職活動においてもアピールできることとなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学びます。簿記検定に必要な仕訳及び総勘定元帳の知識を身につけることができます。	1.初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。2.自らの能力を向上させるために、予復習の課題をこなす。3.社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4.学習を通じて、継続力・忍耐力を身につけることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会A(社会人基礎講座)(前半)	1年生	前	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。1年次から意識することで、3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいただきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。	○	○	◎
実践科目群	研究会A(FP技能検定3級①)(前半)	1年生	前	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。ファイナンシャルプランに必要な資金計画、年金を中心とした社会保険、生命保険や損害保険の基礎知識をFP実務経験のある講師と実践的な知識と試験対策両面を意識した講義。注意(点)原則、FP研究会AとB続けて受講推奨。A、Bの後、後期でC、Dの受講。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等その他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会A(スポーツビジネス)(前半)	1年生	前	●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させるその企画書を多くの人々に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー 世の中に数多ある情報をいかに自分のものにするか? 見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。段取りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	◎

実践科目群	研究会B (スポーツビジネス) (後半)	1年生	前	本講義では、スポーツサプリメントやスポーツの情報素材を多数開発し、流通に乗せてきた教員がそれらの経験を生かして、皆さんがビジネスプランを考案できるように実践的なサポートを行います。「スポーツ」×「〇〇」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言いますが、実際にスポーツをコンテンツとする自分のビジネスモデルを考案してみましょう。何を、誰に、どこで、いくらで、どうやって売るのが売れるのか？を細かく検討していきましょう。最終的にはビジネスプラン系コンテストに応募してもらいます。	□「スポーツビジネスとは？」と問いかけられた時に概要を説明できる。□ビジネスの仕組みを説明できる。□ビジネスのモデルを考案できる。□学外のコンテストに応募できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会B (簿記3級②) (後半)	1年生	前	大学での学習の結果を「簿記3級資格取得」で表現できれば、本人が自信を増すことになり就職活動においてもアピールできることとなる。「簿記」を初めて学ぶ学生が興味を持てるように、簿記検定の基礎となる仕訳と転記を学びます。簿記検定に必要な仕訳及び総勘定元帳の知識を身につけることができます。	1.初めて学ぶ「簿記」に興味を持ち、基本的な知識を修得することができる。2.自らの能力を向上させるために、予復習の課題をこなす。3.社会人としての必要な会計の基礎を理解することができる。4.学習を通じて、継続力・忍耐力を身につけることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会B (FP技能検定3級②) (後半)	1年生	前	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会Aの内容を踏まえ、新たに資産運用(金融)とタックスプランニングについて学習する。資産運用においては株式や投資信託など投資商品の理解をし、FP実務経験のある講師と老後への資産形成はどうか？考える機会とする。注意点)原則、FP研究会AとB続けて受講推奨。A、Bの後、後期でC、Dの受講。A～Dすべて受講することでFP全科目を網羅できる。	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等 其他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会C (公務員試験) (前半)	1年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■大学生生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で非常に有益なものとなります。本講義では各人のやる気を積極的に支援します。この講義は公務員試験合格を目指す学生を対象とした基礎力向上講座です。公務員試験の重要科目的推理を中心に問題演習をしていきます。集中的に学習するため、木曜日の3.4限連続で実施します(前期前半に集中)	1.能力向上に挑戦する意識を高めること。2.能力向上に挑戦できること。3.能力向上に挑戦続ける方法を身につけること。4. 数的推理の基本問題を解けるようになること。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会C (簿記3級③) (前半)	1年生	後	簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っては過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に合格するために必要な基礎力を身に付けることができ、本格的な試験対策講義を行う研究会D(簿記3級④)に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・合格するために必要な基礎力を身に付けることができる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会C (社会人基礎講座) (前半)	1年生	後	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいただきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。	◎	○	◎
実践科目群	研究会C (FP技能検定3級③) (前半)	1年生	後	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会A・Bの内容を踏まえ、不動産と相続・贈与について学習する。高齢化社会を迎え、相続を前提とした不動産の活用など時事問題も取り上げ、FP実務経験のある講師と相続対策の方法、自宅(実家)の在り方などについても議論する。注意点)原則、FP研究会AとB受講者を対象とする。後期でC、Dを連続受講推奨。すべて受講することでFP全科目を網羅できる。	・ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得することができる。・ファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等 其他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会D (簿記3級④) (後半)	1年生	後	簿記のルールに基づき財務諸表が作られ、それを世界中の人が見て経済活動を行う中、「簿記が分からなければ経済が分からない」と言っては過言ではない程、経済を学ぶ上で、簿記は全ての社会人に共通する必要不可欠な知識である。当講義では、日商簿記検定3級に確実に合格するために必要な実践力を身に付けることができ、一つの成功体験として資格を取得し、先に控える就職活動および将来に繋げていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・合格するために必要な実践力を身に付けることができる。・学習を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。・当講義を通じて自らの将来(就職)を考えることができる。	◎	○	○
実践科目群	研究会D (FP技能検定3級④) (後半)	1年生	後	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。研究会A～Cで取り上げた分野を中心に、FP実務経験のある講師とFP相談現場を想定しながら、様々な事例を学習する。また、FP3級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。注意点)原則、FP研究会A～Cを受講している者を対象とする。	ファイナンシャルプランニング技能士3級試験で合格するための基礎知識の習得、及びファイナンス分野に接することで、2級以上のFP(ファイナンシャルプランニング)資格取得や、経済・金融・財務等其他学部科目における探究心を向上させることができる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会D (スポーツビジネス)	1年生	後	本授業では、主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。スポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報取材開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を活用しながら学んでもらいます。特に教員の実務経験を基に提示される複数の課題(候補)の中から最も興味深いテーマの一つを選んで掘り下げていき、ビジネス存続の条件について精査し、既存のスポーツビジネスを発展させる可能性について考察を深めます。	1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。	○	◎	○

実践科目群	研究会E (サービス接客検定) (前半)	2年生	前	本演習では、ビジネス系検定のサービス接客検定3級取得を目指している学生を中心に6月検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。なお、2級既修得の学生などについては個別に準1級の指導も行う。	・サービス接客検定3級に合格できる。・サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。・正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会E (スポーツビジネス) (前半)	2年生	前	●スポーツビジネスを中心に、イベント・番組制作など全てのジャンルに対応できる企画の立て方、限定された課題の中で、0からの発想によりアイデアを構築し、企画書を完成させる。その企画書を多くの人々に理解してもらうためのプレゼン能力を養う。●情報リテラシー 世の中に数多くある情報をいかに自分のものにするか? 見極める力を養う。自己目標とそれを達成するための戦略と行動計画。	与えられた課題の中で、自由な発想と、ニーズに応えられる企画を構築できる。個人(もしくはチーム)で創造した企画の主旨、内容を伝えることができる。学生同士の評価により、より高いレベルを目指すことができる。段取りを見極めて企画をチームで作り上げることができる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会E (大学院)	2年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点が見える。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会E (FP技能検定2級①)	2年生	前	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	研究会E (旅行業務取扱管理者①)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である旅行業法(旅行業法及びこれに基づく命令)および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会E (環境・品質ISO)	2年生	前	1. 講師はISO(国際標準化機構)の審査機関であるEQA国際認証センターの審査活動ならびに審査員トレーニングの経験を活かし、実務の授業を展開する。2. この科目は、企業や行政機関に導入しているISO規格を内部環境監査資格を有する人材を在学中に資格取得させる授業である。前期の集中講義(4日間)を受講することにより、環境マネジメントシステム(ISO9001)内部環境監査員の資格を取得する事ができる。(有料)試験の合格は70点以上とする。詳細は掲示板に記載する。	1. 監査計画、実施、証拠の収集、経営者層に提出する監査報告書の作成等の監査力量を備えた内部環境監査員の養成を目指す授業である。ならびに、持続可能な社会の実現に向け、将来において環境管理に関して適切な意思決定を行うための素地を養う授業である。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会E (公務員試験)	2年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■大学生生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で非常に有益なものとなります。本講義では各人のやる気を積極的に支援します。この講義は公務員試験合格を目指す学生を対象とした基礎力向上講座です。公務員試験の重要科目的推理を中心に問題演習をしていきます。集中的に学習するため、木曜日の3,4限連続で実施します。(後期前半に集中)	1. 能力向上に挑戦する意識を高めること。2. 能力向上に挑戦できること。3. 能力向上に挑戦し続ける方法を身に付けること。4. 数的推理の基本問題を解けるようになること。		◎	◎
実践科目群	研究会F (スポーツビジネス) (後半)	2年生	前	本講義では、スポーツサプリメントやスポーツの情報教材を多数開発し、流通に乗せてきた教員がそれらの経験を生かして、皆さんが独自のビジネスプランを考案できるように実践的なサポートを行います。「スポーツ×◯◯」とスポーツをコンテンツとして扱うあらゆる形態のビジネスを総称してスポーツビジネスと言いますが、実際にスポーツをコンテンツとする自分のビジネスモデルを考案してみましょう。何を、誰に、どこで、いくらで、どうやって売るか? 売れるのか? を細かく検討していきましょう。最終的にはビジネスプラン系コンテンツに応募してもらいます。	□「スポーツビジネスとは?」と問いかけられた時に概要を説明できる。□ビジネスの仕組みを説明できる。□ビジネスのモデルを考案できる。□学外のコンテンツに応募できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会F (社会人基礎講座) (後半)	2年生	前	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。1年次から意識することで、3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備となります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいただきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎
実践科目群	研究会F (大学院)	2年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点が見える。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会F (実践外国語)	2年生	前	This course is a speaking & listening course. Students will practice their speaking skills in pairs and groups. Students will also give mini-presentations.	The purpose of this course is for students to develop their speaking and listening skills. Students will be able to understand simple conversations. Students will be able to have simple conversations. Students will be able to give short presentations.	○	○	○

実践科目群	研究会F(旅行業務取扱管理者②)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である約款および海外の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行者等と旅行者とのルール(約款)を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会F(2級工業簿記)	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含む約25年、税理士として13年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。工業簿記は、材料を仕入れ、機械などを利用して加工し、製品を作り販売する製造業で用いられる簿記である。これらを複式簿記の原理に基づいて知識と技術を詳しく説明し、記録・計算をする。実際原価計算における費目別計算及び部門別計算や原価計算の計算段階に関する知識を修得する。また、実際原価計算における製造別計算及び標準原価計算について学修する。これによって、応用された原価管理ができ、原価計算制度に関する知識を修得する。加えて、日商簿記検定試験2級工業簿記で問われている演習問題に取り組む。	1. 原価計算の目的と原価計算制度の分類について、説明することができる。2. 実際原価計算の手続きについて、具体的に述べることができる。3. 財務諸表について、正確に作成することができる。4. 標準原価の算定について、正確に行うことができる。5. 原価差異の算定および分析について、説明することができる。6. 検定試験の出題範囲とその内容を網羅しており、それらについて解答できる。	◎	◎	○
実践科目群	研究会G(秘書検定)(前半)	2年生	後	本演習では、ビジネス系検定の秘書検定3級取得を目指している学生を中心に、11月及び2月に行われる検定の合格を目指す。実問題の過去問題を用いて学生が答えを出した後に解答・解説を行い、各問題のキーワードの理解を深める。なお、2級既取得の学生などについては個別に準1級の指導も行う。	・秘書検定3級に合格する。・サービス業に従事するスタッフの求められる資質・能力が理解できる。・正しい言葉遣いや態度が理解できる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会G(スポーツビジネス)	2年生	後	主にスポーツビジネス領域におけるビジネス実務能力を高めていきます。特にスポーツビジネス関連企業経営、スポーツビジネス関係情報開発開発経験を生かして、PBL(Project or Problem Based Learning)を活用しながら学んでもらいます。本授業においては、教員の実務経験を基に提示される複数の課題候補の中から最も興味深いテーマを一つ選んで掘り下げていきます。ビジネス存続の条件を精査しながら、既存のスポーツビジネスを発展させる可能性を考え、新しいビジネスプランも考えてもらいます。	1)授業の目的を正確に把握し、準備をして臨むことができる。(2)準備した内容を基に、授業内で積極的に行動することができる。(3)毎回の活動記録を正確に残すことができる。(4)個人課題とグループ課題のどちらにも計画的に取り組むことができる。	○	◎	○
実践科目群	研究会G(FP技能検定2級②)	2年生	後	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	研究会G(大学院)	2年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習していきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行います。また、大学院受験のアドバイスを行います。	1.経営学の主要論点がわかる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
実践科目群	研究会G(経営学検定)	2年生	後	本講義は、全国規模で行われる「経営学検定試験」の受験を希望する学生諸君を対象として同検定「初級＝大学生修得レベル」の合格を目標に「専用テキスト」に基づく講義・出題ポイントの解説、また豊富な過去問題への挑戦を通じて実践力の養成を目指します。同検定は企業システム、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題(情報化、国際化、M&A等)の5領域によって構成されており、特に「中小企業診断士」等経営系資格の受験希望者、あるいは経営系の大学院進学を目指す学生の試験対策として有効な機会となります。なお、2年次配当の科目となっておりますが、該当する専門科目の受講後の方が理解しやすいため3年次での受講をおすすめします。	・経営学の主要領域(企業システム、経営戦略、経営組織、経営管理等)の重要学説および諸概念について説明できる。・経営学検定試験の合格レベル(70%以上の正答率)に必要な知識を修得することができる。・中小企業診断士等の経営系資格の受験希望者/大学院進学希望者が試験対策(経営学)として十分な基礎的能力を培うことができる。	◎	○	
実践科目群	研究会G(スポーツイベント検定)	2年生	後	スポーツイベントはプロ野球、Jリーグ、Bリーグ、ラグビートップリーグなど福岡県で開催されるプロの試合も数多く、生活を彩る重要なものとなっている。これら大規模イベントから、地域の行事まで、スポーツイベントに関する仕組みや企画・運営方法について学ぶ。イベントの現場ではどのような準備と運営をされているのか、味の素スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザでの勤務経験を生かして臨場感を持って解説する。特にCOVID-19による影響、対策なども加えて話したい。日本イベント産業振興協会の「スポーツイベント検定」の受験を推奨する。	・スポーツイベントの基礎知識を習得し、イベントについて説明できる。・スポーツイベントの構造を理解し、スタッフとして働く基礎ができる。・身近にある様々なスポーツイベントに応用できるようになる。・スポーツイベントを企画・運営する会社、団体について理解を深め、就職活動の視野に入れる。	○	◎	◎
実践科目群	研究会G(旅行業務取扱管理者)	2年生	後	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)で合否を左右する科目である国内旅行実務・海外旅行実務について、出題頻度の高い項目を中心に学習することで、確実に合格できる応用力を身に付ける。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務の取引を行う上で必要不可欠なJR・国内線の計算方法を身に付けることができる。・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な応用力を身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。	○	◎	○

実践科目群	研究会H (社会人基礎講座) (後半)	2年生	後	この講座では、近い将来にやってくる就職(社会人デビュー)に備え、社会人として求められる考え方、社会知識、コミュニケーションの基礎能力について学び、トレーニングします。授業で学んだことを実生活で実践してください。3年次に始まる就職活動にむけての効果的な準備にもなります。本プログラムは、新入社員研修をはじめ企業での研修業務の経験豊富な講師が担当し、毎週2コマ連続で集中的に取り組んでいただきます。	1. 社会人として活躍できる人材になるため、自分に必要なものがわかるようになる。2. 社会人や職業人に必要な考え方の理解を深め、日々の生活で意識できるようになる。3. 社会人として必要な人間関係の作り方を学び、学生時代から実践できるようになる。		○	◎
実践科目群	研究会H (大学院)	2年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)の演習をしていきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点が変わる。2.経営学の主要理論がわかる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。		◎	◎
実践科目群	研究会H (2級商業簿記)	2年生	後	学生生活の成果を資格取得という形で「見える化」することは、就職活動などの場面で説得力を増すこととなるだけでなく、成功体験が自信にもなるとも思います。この講義は、日商簿記検定2級商業簿記の検定試験対策を行います。昨今の日商簿記検定2級商業簿記は出題範囲も広がり、以前は1級の出題範囲とされていたものが含まれるなど、非常に難易度が上がっています。全15回の講義の前半では特に理解が難しいとされる連結会計など個別論点をしっかりと学習し、後半は演習中心で時間内に解答するスキルを身につけます。税理士実務の経験を有する教員が、検定試験の内容を踏まえつつ実務上の論点なども掘り下げた授業を展開します。	①簿記や会計の意義を理解できる②個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの記帳ができる③個人企業(初級)または中小企業(中級)レベルの決算ができる④日商簿記検定2級に合格できるスキルを身につけることができる		○	◎
実践科目群	研究会H (実践外国語)	2年生	後	Students will practice speaking and listening to English in this class. Students will work in pairs and small groups. Students will do a number of mini-presentations.	Students will be able to have simple conversations in English. Students will be able to listen to and understand simple conversations in English. Students will be able to give short presentations in English.		○	○
実践科目群	研究会H (金融リテラシー講座)	2年生	後	・金融に関する基礎から証券取引・投資の実際について取り上げる。 ・経済の基本知識や経済情報の見方や、金融の意味などから、金融機関、金融市場、証券市場について取り上げる。・また、株式・債券・投資信託の基本的説明や投資の方法、リスクとリターンなどの実際も説明する。証券市場および投資について全般を理解できる構成としている。・授業内容は、FP検定の「セクション3、金融資産運用」と密接に関連したものである。・なお、講義はリレー形式(1,3,5,7,9,11,13,14回)であり、各回の講師は大和証券グループ本社に所属し、証券金融ビジネスの実務現場最前線で業務を行っている担当者である。	・経済・金融教育を通じて、学生が自らの判断に基づいて行動し、主体的に生きる力を身に付けることを目的とする。・単に経済問題についての表面的な知識をつけるだけでなく、社会生活の原理原則というものを十分に理解することを旨とする。		◎	◎
実践科目群	研究会H (旅行業務取扱管理者)	2年生	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(総合)の重要科目である海外旅行実務について、出入国法令・出入国実務および海外の観光資源を中心に国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。		○	◎
実践科目群	研究会I (旅行業務取扱管理者③)	全学年	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である国内旅行実務として、JRを中心とした国内運賃および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務の取引を行う上で必要不可欠なJR・国内線の計算方法を身に付けることができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。		○	◎
実践科目群	研究会J (旅行業務取扱管理者④)	全学年	前	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(総合)の重要科目である海外旅行実務について、出入国法令・出入国実務および海外の観光資源を中心に国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・出入国法令として、パスポート(旅券)の申請手続や日本帰国時の税関手続、および出入国実務として、航空時刻表の読み方の知識を身に付けることができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。・学修を通じて、継続力・忍耐力を身に付けることができる。・自らの課題に気づき、克服するための実行力を身に付けることができる。		○	◎
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	・卒業論文の作成を行う。・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルである プロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます(実務能力)。・大学院進学チームは、研究計画書作成を想定して卒業論文を作成する。○ゼミ内容は、チーム別に活動する予定です。初回のガイダンスで説明します。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究プロジェクトマネジメント能力を身につけることができる。		○	◎
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	大学4年間の総まとめとして、卒業論文を作成する。経済学部監修「卒論の手引き」を参考に、あるテーマについて論じる。	・物事の本質を見る目を養うことができる。・考察やまとめの手法を身につけることができる。・参考文献や引用文献の重要性を理解することができる。・文章をまとめる力を養うことができる。		◎	◎

実践科目群	卒業研究	4年生	通年	主にスポーツビジネス領域における事業の中から研究テーマを設定し、調査を行います。随時進捗報告を積極的にいながら、卒業論文の形式にまとめいく準備を進めます。1～10回で概ね研究テーマの設定と仮説の構築まで行います。11～20回では仮説が成立するかどうかを判定するために必要な資料の収集に専念します。21～30回で論文執筆を進めていきます。完全に個別対応としますので、積極的に取り組んでください。	①個人研究のテーマを具体的に設定できる。②設定したテーマを明らかにするために必要な調査ができる。③研究の進捗状況を早め早めに報告できる。④フィードバックされた内容を反映して研究の精度を高めることができる。⑤正しい日本語表現を用いて論文にまとめることができる。	◎		◎	◎
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	テーマ選択から調査、論文作成、作成の相談、ミニプレゼンテーションを通して、自分の主張を文書にまとめることと発表することの一連の流れを学ぶ。	卒業研究の作成を通じて、将来、社会人として自ら考え、行動する能力を養うことができる。	◎		◎	◎
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	本授業では、①研究テーマが学問的意義を持ち、②先行研究調査を十分に行って、③論理の展開・論証の仕方が明快であり、④独創性・創造性に富んでいる、卒業論文を作成して、その内容を発表することを目的とする。	1. 研究テーマの学問的意義について、具体的に説明することができる。2. 先行研究調査の進め方を理解して、調査を十分に行うことによって、その課題について推論することができる。3. 明快な論理の展開・論証の仕方を理解して、それにしたがって相手を説得させることができる。4. 先行研究、文献調査、客観的な根拠にもとづいて、独創的・創造的な結論を述べることできる。5. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○		○	○
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	受講者が自ら選択したテーマに関して調査・分析した結果を20ページ以上の卒業論文として執筆することを最終目標とする。受講者には、ゼミナールⅣ、ゼミナールⅤおよびゼミナールⅣ(編入)、ゼミナールⅤ(編入)の授業と並行する形で、テーマ探し・テーマ選択、既存研究のサーベイ、資料・データの収集、分析、論文執筆の順番で取り組みを行うよう促すとともに、それぞれの局面毎に個別面接・個別指導を行う。論文執筆段階に入ったら、研究室や教室での指導に加え、Lineを使った音声通話・ビデオ通話による指導を併用する。	・20ページ以上の卒業論文を執筆する・論文には、問題提起、主張、根拠、参考文献を盛り込む・他者の研究成果の利用に際しては、著作権に注意を払って、明示的な引用を行う	◎		◎	◎
実践科目群	卒業研究	4年生	通年	本ゼミにおける卒業論文については、財務会計学を主としたテーマを取り扱う。本授業においては、学生が卒業論文の作成を行うことが主とした授業内容となる。	①卒業論文を作成することができる。②財務会計における主要テーマについて説明することができる。	◎		◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	経済の動きについて学ぶ。現代経済ではどんなことが問題になっているのか考える。	経済の動きについて過去から現在へ説明できる。	◎		○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	ゼミナールは、卒業までの期間における受講者の①経済・社会に関する一般常識の習得、②要点把握能力の向上、③プレゼンテーション能力の向上、④レポート作成能力の向上を目的とする。この「ゼミナール入門」では、政府白書の購読を通じて、小見出しやキーワードに着目すれば手際よく要点を把握できること、図表がメッセージを伝えるうえで効果的な役割を果たせることを学ぶ。その一環として、Excelによる折れ線グラフ・棒グラフの作成を行い、実践的な経済分析の手法を修得する。併せて、資料要約や報告のためのツールとして、PowerPointの具体的な使い方も学ぶ。また、文献購読やその要約を通じて、文章表現力も向上させる。	・既存文献の要約をPowerPointプレゼンテーションシートにまとめることができる。・Excelを用いて、計算ができる。・Excelを用いて、折れ線グラフや棒グラフを作成できる。・レポートに求められる文体の文章を書くことができる。	◎		○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートの書き方がわかる。4. 文章記述や発表能力を高めることができる。	◎		◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○		◎	◎
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	教科書に基づいて、輪読します。発表者は要約(レジメ)を作成し、それ以外の学生は、複数の質問を用意して、発表者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・卒論作成のために必要な基礎知識を修得することです。	◎		○	○
ゼミナール科目群	ゼミナール入門	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として13年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用するかを説くことができる。4. レジメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎		◎	◎

ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、域学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べる事ができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えるとともに、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。	・問題認識、データ取集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	・抽象的/理論的に金融を学ぶのではなく、金融業界における個々の業種の外形分析することにより金融を学んでいきます。チームを組成し、共同して調査・発表してもらいます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身に付けてもらうこともゼミの目的です。 ・資格試験の受験者が相当数いる場合、その演習などを行うことも検討します。また、各自で独自のプロジェクトをしたい人がいる場合も同様です。 ・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・金融業界の個別業種およびそれらの業務上の仕組み・ビジネスモデルを理解できる。 ・金融業や各業種に関連する情報を自分で収集し、分析、考察を作成することができる。○チーム別に活動を通じて個別の目標達成に向けたPDCAを回せる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会はほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、老舗企業を理解するうえで必要となる概念を学習する。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。 ・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。 ・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組み、その中でも自分の意見、主張を積極的に述べる事ができる。	◎	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和と政策・技術について学ぶ。2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかになり、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知られてきた。2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年前期では、現在の地球環境問題の基礎を学ぶ。	地球環境がひっ迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。企業の環境への配慮について理解する。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身に付ける。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。まず、分析するために必要な知識として、決算書が理解できるようになります。次に法的問題点について理解できるように企業法の基礎について学びます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身に付けることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	ゼミナール入門では、大学で学問を修めるための研究方法の基本について学びます。本ゼミでは「スポーツビジネス」の分野を主に研究の対象とし、個人研究及びグループ研究(ビジネススキルの修得)の双方を行います。個人研究の面では実際にスポーツビジネスに携わってきた経験を生かして、具体的なビジネスモデルの考案に関するサポートを行います。グループ研究では私の人脈を生かして外部の企業と繋がりながら社会人基礎力の向上を図るプロジェクトにチャレンジしていきます。	□スケジュールを管理することができる。□ビジネスのコンテンツとしてのスポーツについて説明できる。□スポーツに関わる仕事に就くというイメージを持つことができる。□スポーツイベントの運営を補助することができる。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	憲法の基本論点について、解説し議論していきます。特に、現代社会で問題となっているテーマを中心に扱います。公務員試験をはじめとした就職試験の土台となる読解力養成プログラムを実施します。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発展的に説明できるようになる。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自分なりの考えを持ち、意見を述べる事ができるようになる。③基礎的なリーディングリテラシーを習得し、公務員試験をはじめとした就職試験に対応できるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナール入門	2年生	前	スポーツやイベントを通じた「人と人のコミュニケーションのあり方」について学び、体験して行く。教科書や書籍を通じて学ぶことも大切だが、カラダを動かすこと、学外の人と接すること、イベントを実際に運営することなど、地域や社会の中に学生の発想や活力を発信するような活動を行う。ゼミを通じて「自分の頭でしっかり考えること」「わからない事は、スマホの検索ではなくきちんと調べること」「ゼミのメンバーとはきちんとコミュニケーションを取る」との三つを基本とする。	ゼミ生として社会で役に立つ『生きる力』を身に付けられるようにする。1. 基本の習得 ・社会人として必須の「読み、書き、そろばん(ITリテラシー)」を身に付ける。 ・自分の頭で考え、自分の言葉で文章を書いたり伝えたりできるようにする。2. 授業での実践 ・スポーツの持つ力やイベントを通じた参加者同士、地域とのつながりを体感できるようにする。 ・一つひとつのイベント企画や運営に対しても、知恵を使い、工夫をこらし、感動を生み出すことのできる実力をつけられるようにする。	○	◎	○

ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、毎回、SPI対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①SPIに関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	就職するため、仕事をするために役立つ資格に簿記検定やFP検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定やFP科目の金融資産運用を学ぶことはとても大切なことです。ゼミナル入門及びゼミナルⅠにおいて、日商簿記検定2級の受験を目標とし、日商簿記検定2級向けの対策講義と演習を実施します。また、コミュニケーションスキルを身につけるため、発表会なども適宜実施します。	1.簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。2.会社四季報に記載されている、財務諸表の内容が理解できるようになる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	社会における仕事(業種や業界)を広く知りスポーツマネジメントが社会の中でのどの位置で必要とされているのかを認識する。1.プロスポーツ運営会社のマネジメント。2.NPO法人が運営するチームやクラブのマネジメント。3.行政が関与する総合型スポーツクラブ等のマネジメント。(学習の内容)1.個人で上記組織の調査・研究を行う。2.グループワークを用いてより深く調査・研究を行い理解を深める。3.現場に於いて体験活動を行うことによりノウハウを身につける。	・スポーツマネジメントについて調査、研究を行う。知識を深めマネジメントのノウハウを取得しそれぞれの仕組みや違いについて理解できる事を目標とする。・自ら「考え・判断し・行動できる」大人になるために、多くの調査・研究を通して、素直に物事と対峙し「気持ち」この大切さを学んで欲しいと考えています。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	(ゼミのテーマ)「プロスポーツビジネスの考察」(学習の内容)サッカーJ2リーグ、ギラヴァンツ北九州の取り組みを考察するとともに、新たな発展について検討することを目的とします。具体的にはギラヴァンツ北九州の経営理念と実際の経営活動について検証します。例えば、クラブと北九州市の連携がいかに行われているか、更に掘り下げていけば、サッカースクール事業、地元小中学校との連携、小倉など地域の商店街とのつながり、広報活動の比較評価等であります。これらを検証していくことで新たな問題を提起します。	1)プロスポーツビジネスを理解できるようになる2)ギラヴァンツ北九州の取り組みから具体的な経営を理解できるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	現在の厳しい経済情勢において自分の人生を自分で切り開いていく際に必要な知識、情報、スキル等について考え、理解する。授業では教員のこれまでの業務経験等を踏まえた具体的な事例も提示し、理解を深める。	・現在の厳しい経済情勢を踏まえた自らのキャリア戦略、人生戦略を考えることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナル入門	2年生	前	経営学・経済学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できる。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・経済学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・経済学への理解を深める。その際には、各自の進路や興味に経営学・経済学を応用することを重視する。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力をも高めたい。	1.論文の書き方や調査方法がわかる。2.企業や業界の現状について理解できる。3.経営学の知識を応用することができる。4.経済学の知識を応用することができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅠ	2年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。現代経済の問題は何か、理解する。	経済の動きについて、過去から現在へ説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅠ	2年生	後	ゼミナルでは、卒業までの3年間をかけて、①経済・社会に関する一般常識の習得、②要点把握能力の向上、③プレゼンテーション能力の向上、④レポート作成能力の向上に取り組む。2年次後期は、文献購読初年度(初級編)の重点課題として、経済・社会に関する一般常識の習得を目的として、各種文献を購読する。また、受講者の要望も踏まえ、必要に応じて、Excelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組む。	・日本経済の構造と課題について、自分の言葉で説明できる。・日本財政の構造と課題について、自分の言葉で説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅠ	2年生	後	ゼミナルでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートの書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅠ	2年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信頼性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1.情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2.情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅠ	2年生	後	教科書に基づいて、輪読します。発表者は要約(レジュメ)を作成し、それ以外の学生は、複数の質問を用意して、発表者との間で質疑応答を行なってもらいます。	・卒論作成のために必要な基礎知識を修得することができる。	◎	○	○

ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として13年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用できるかを学ぶことができる。4. レジュメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。	○	◎	◎
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	・金融取引、市場および業界に関連するテーマについて研究します。まず分析の実際的な進め方を習得し、その後分析を手掛けます。・チーム内で分担し、自らが立てた計画に基づいて進められます。社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらうこともゼミの目的です。・資格試験の受験者が相当数いる場合、その演習などを行うことも検討します。また、各自で独自のプロジェクトをしたい人がいる場合も同様です。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・分析可能な具体的なテーマを設定することができる。・必要な分析フローや採用すべき分析手法など計画することができる。・チーム内でコミュニケーションを取りながら、責任をもって担当を遂行することができる。○チーム別に活動を通じて個別の目標達成に向けたPDCAを回せる。	○	◎	◎
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	本演習では、創業から100年以上経過し「老舗」と呼ばれている企業を研究対象とする。グローバル化した現代において、長期的な視点で経営を考える機会がほとんどなくなっている。こうした時代であるからこそ、長期にわたって存続してきた老舗企業に学び、継続することの意味を問い直す必要があるように思われる。ここでは、老舗企業の具体的な事例を考察する。	老舗企業の概要について理解し、説明することができる。	◎	○	○
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。2年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。2年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討論を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組み、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和と政策・技術について学ぶが、2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかになれば、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知られ渡っている。2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年後期では、現在の地球環境研究の最前線について概観する。	地球環境が逼迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。企業の環境への配慮について理解する。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。	◎	◎	◎
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナール入門で身に付けた知識を活かし、前半は事例や裁判例の検討を行っていきます。後半は、いよいよゼミ研究の準備に入ります。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナル 科 目 群	ゼミナール I	2年生	後	ゼミナール I は、演習形式の授業です。前期から取り組んできたテーマに取り組みながら、社会人基礎力を高めていきます。指導教員は、民間企業や一般社団法人の経営に携わってきた経験を生かして、「どのような人材が今求められているか?」という視点から実践的なアドバイスをっていきます。特にITの活用が一般化されている今日における社会人基礎力とはどのようなものか?最新の情報を織り交ぜながら、就活にも役立つ実践的スキルを高めていきます。*実際のテーマは個人面談により『ゼミナール入門』で決定します。	□ 成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない課題を見つけることができる。□ それらの課題を解決する具体的な方法を立案できる。□ 計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。□ 活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。□ 上記の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎

ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	ゼミナール入門で得た知識や技能を活用しながら、スポーツビジネスやイベントについてさらに実践経験を積む。企画段階からプロジェクトに参加し、それぞれのイベントスタッフとして実施に当たる。福原学園の3幼稚園でのラグビー体験については、2年生が主体となって園側と交渉を行い、前期のプログラムを発展させた形で2回目の体験教室を開催する。適宜リモート講義を導入し、第一線で活躍する社会人からの刺激を受ける。	ゼミ生として社会で役に立つ『生きる力』を身につけられるようにする。1. 基本の習得 ・社会人として必須の「読み、書き、そろばん（ITリテラシー）」を実践的に身につける。 ・個人発表やプレゼンテーションの機会を増やし、自分の言葉で文章を書いたり、資料をまとめ訓練とする。2. 授業での実践 ・スポーツの持つ力やイベントを通じた参加者同士、地域のつながりを体感できるようにする。 ・一つひとつのイベント企画や運営に対しても、これまでの経験を生かし、さらに知恵と工夫によって感動を生み出すことのできる実力をつけられるようにする。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、公務員試験（初級）対策などの演習を実施することで、問題に慣れるとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、面接や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①公務員試験（初級）に関する過去問などの演習問題に解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できる③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	就職するため、仕事をするために役立つ資格に簿記検定やFP検定があります。会社を見極めるために必要な知識として、2年生のうちから簿記検定やFP科目の金融資産運用を学ぶことはとても大切なことです。ゼミナール入門及びゼミナールⅠにおいて、日商簿記検定2級の受験を目標とし、日商簿記検定2級向けの対策講義と演習を実施します。また、コミュニケーションスキルを身につけるため、発表会なども適宜実施します。	1.簿記の知識を身につけて、説明ができるようになる。2.会社四季報に記載されている、財務諸表の内容が理解できるようにする。3.2月実施の日商簿記検定2級の受験をできるレベルまで知識を深める。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	ゼミナール入門で習得した知識を基にスポーツマネジメントの以下の各領域について調査・研究・実践（インターンシップ）を行う。1. プロスポーツ運営会社のマネジメント。2. NPO法人が運営するチームやクラブのマネジメント。3. 行政が関与する総合型スポーツクラブ等のマネジメント。（学習の内容）1. 個人で上記組織の調査・研究を行う。2. グループワークを用いてより深く調査・研究を行い理解を深める。3. 現場に於いて体験活動を行うことによりノウハウを身に着ける	・スポーツマネジメントについて調査、研究、実践（インターンシップ）を行う。知識を深めマネジメントのノウハウを取得しそれぞれの仕組みや違いについて理解できる事を目指す。・自ら「考え・判断し・行動できる」大人になるために、多くの調査・研究・実践（インターンシップ）を通して、素直に物事と対峙し「気付く」ことの大切さを学んで欲しいと考えています。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	（ゼミのテーマ）「プロスポーツビジネスの考察」（学習の内容）サッカーJ2リーグ、ギラヴァンツ北九州の取り組みを考察するとともに、新たな発展について検討することを目的とします。具体的にはギラヴァンツ北九州の経営理念と実際の経営活動について検証します。例えば、クラブと北九州市の連携がいかに行われているか、更に掘り下げていけば、サッカースクール事業、地元小中学校との連携、小倉など地域の商店街とのつながり、広報活動の比較評価等であります。これらを検証していくことで新たな問題を提起します。	1)プロスポーツを理解できるようにする2)ギラヴァンツ北九州の取り組みから具体的な経営が理解できるようになる	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	昨今の不透明な経済情勢において自分の人生を自分で切り開いて歩んでいく際に必要な知識、情報、スキル等について起業をテーマに理解する。また、教員のこれまでの業務経験等を踏まえた具体的事例も提示し、理解を深める。	昨今の不透明な経済情勢等を踏まえた自らのキャリア戦略、人生戦略を考えることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅠ	2年生	後	経営学・経済学は実践学であり、一方その理論とは、会社の抱える諸課題の解決策を示しているものと理解できる。そこで、本演習では、卒業までの期間を通して、産業界や企業の現状と抱える課題を調べ、経営学・経済学の知識を応用することで企業体の現状や経営学・経済学への理解を深める。その際には、各自の進路や興味に経営学・経済学を応用することを重視する。また、レジュメ作成や発表・ディスカッションにより、表現能力を高めたい。	1. 論文の書き方や調査方法がわかる。2. 企業や業界の現状について理解できる。3. 経営学の知識を応用することができる。4. 経済学の知識を応用することができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅡ	3年生	前	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。「イノベーション」に関心を持ち、具体的事例を説明できる。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 シュンペーター的視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅡ	3年生	前	ゼミナール2年目のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識の習得、②要点把握能力の向上、③プレゼンテーション能力の向上、④レポート作成能力の向上に本格的に取り組む。特に、文献購読の第2年度目（中級編）の重点課題として、単なる文章読解ではなく、どのような経済学的考察が行われているかを理解することを重点課題に位置付け、経済財政白書を購読する。また、掲載されているグラフと同じものを再現・作成することで、レポート作成に必要なExcelの実践的な利用法についての理解を深める。また、PowerPointによる資料作成と報告を通じて、プレゼンテーション能力を確実に高める。	・既存文献の要約をPowerPointプレゼンテーションシートにまとめることができる。・PowerPointを用いたプレゼンテーションを行うことができる。・Excelを用いて、目的に合ったグラフを作成できる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅡ	3年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識（自分の問い）と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートの書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視点から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	卒論構想の発表者は要約(レジメ)を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問をしてもらいます。発表者は、その質問にその場で回答を行なってもらいます。	・その場で質問をすることを通じて、何が重要であるのかを理解する能力を修得できます。・発表者は十分な準備を行なうことの重要性を体得できます。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として13年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとする行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用できるかを説くことができる。4. レジメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスタラニングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身につけることを目標とします。本ゼミナルでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	・金融基礎理論チーム、資格取得チーム、および実践学習チームに分けてゼミ活動を行う。・金融基礎チームはテキストおよび各種資料(統計/ニュース/記事等)を通じて学ぶ。・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・プライベート・ファイナンス・チームは、FPの全体像について理解したうえで、各細分野の重点事項を深いレベルで理解できることを目的とする。・金融基礎チームは、理論とデータ、世の中の現実から金融現象を観察する力を養うこと、を目的とする。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	本演習では、ゼミナルⅠに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期にわたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を考える。ここでは、老舗企業の具体的な事例を考察する。	老舗企業が存続できた要因を理解し、そこから各自の見方・考え方を形づけることができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグレードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業/話題の企業について経営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自『卒業論文』の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	このゼミでは、地球環境と地球温暖化およびその緩和と政策・技術について学ぶ。2030年が人類存続の分岐点であることは専門家による研究によって客観的に明らかとされ、それに基づいたNHKの特番によって一般市民に知られ渡っている。2030年の地球平均気温が産業革命以前の地球平均気温より2℃以上上昇すると、地球の気温は不可逆的に上昇し続ける。この状況下において、幅広いグローバルな視点を養うのがこのゼミの目標である。そのため幅広い内容の文献を輪読し、必要に応じて映像を視聴する。2年後期では、現在の地球環境研究の最前線について概観する。	地球環境がひっ迫した状況であることを科学的知見に基づいて再認識する。地球環境問題とくに地球温暖化のメカニズムについて理解する。地球環境問題を緩和するための政策と技術の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するために先進国と新興国、発展途上国の国際的役割について考察する。企業の環境への配慮について理解する。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り、環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。ISO14001環境マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。ISO9001品質マネジメント内部監査員の資格取得を可能とする知識と素養を身につける。	◎	◎	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	企業の脱税、粉飾決算、偽善表示といった事件を新聞やニュースで見聞きしたことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶たないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止について考えていきます。ゼミナルⅠで身に付けた法律や決算書の読み方に関する知識に基づいて、研究に入っていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができる。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための学内外の措置により、昨年度はほぼ全てのスポーツイベントが中止を余儀なくされ、体験学習による実績づくりは未達となりました。この遅れを取り戻すために、今年は現在取り組んでいる個人課題の解決に向けて学外の各種コンテスト(ビジネスプランコンテスト、社会人基礎力育成GP、エッセイ・フォトコンテスト等)に積極的にチャレンジしていきます。これまでにやってきたベンチャーGPの審査員や企業・個人のコンサルティング経験を生かして皆さんのチャレンジを具体的にサポートします。	□スポーツをコンテンツとしたビジネスの可能性について論じることができる。□スポーツビジネスの身近な事例を具体的に3つ以上説明できる。□スポーツに関わる仕事を視野に入れて企業研究ができる。□授業で紹介された実際のスポーツビジネスの事例をより深く理解するための質問を最低3つ考えることができる。□スポーツイベントの運営を1件以上担当する。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	行政法の基本論点について、解説し議論していきます。現代行政国家における基本テーマを中心に取り扱います。公務員試験をはじめとした就職試験の土台となる文章作成力養成プログラムを実施します。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発展的に説明できるようになる。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自分なりの考えを持ち、意見を述べるようになる。③基礎的なライティングリテラシーを習得し、公務員試験をはじめとした就職試験に対応できるようになる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	2年生でのゼミナル入門、ゼミナルⅠでの学修内容、経験を生かし、さらに広い範囲を視野に入れつつ、活動の深掘りもできるようにする。コミュニケーション能力の向上に力を入れ、色んな場面で発信力のスキルアップを図る。就職活動に役立つ面接練習やプレゼンテーションの精度も高め、社会人になっても通用するスキルとして習得する。「はじめてのラグビー体験」は2年生に引継ぎを行う。	スポーツのチームや施設について自主的に学び、関連するイベントについても企画、運営できるようにする。ゼミ内はもちろん、ゼミ外、学外のコミュニケーションについても、円滑に行えるようにする。グループワークやプレゼンテーションを通じて、考える力、伝える力を身につける。実践的な面接やグループワークに対応できる力をつける。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行います。また、毎回、就職試験対策などの演習を実施することで、問題慣れするとともに知識を深めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の書類を作成・指導していきます。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ	3年生	前	自身の就職目標に必要な資格やスキルを身につけてもらいます。就職活動で必須となる会社分析を行うため、会社四季報を読み取れるようになるよう指導します。企業分析を行った結果、興味のある業界について発表していただきます。日商簿記検定やFP検定などの資格取得は積極的に進めていただきます。また、履歴書を使用した面接練習などの就職活動に向けたトレーニングも実施します。	1.資格取得ができるように、知識を身につける。2.会社四季報の内容を理解し、企業の比較ができるようになる。3.個人で発表ができるような、プレゼンテーションスキルを身につける。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈秋編留〉	3年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈春編留〉	3年生	前	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターについて理解する。現状の経済経営を考えつつ、それら経済学者について理解する。	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターの考え方を理解する。現状の経済を過去から未来へ語るができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈春編留〉	3年生	前	「グローバル化」「ボーグレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在を強烈に意識させられる場面に遭遇するはずです。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1. 自分なかにすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観視して文章にまとめることができる。2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効な情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間に込められた筆者(作者)の意図の読解ができる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈春編留〉	3年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈春編留〉(再)	3年生	前	・就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに研究計画作成を行います。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅡ〈秋編留〉	3年生	前	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。3年次前半は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。3年次後半は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討議を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力向上の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べるることができる。	◎	○	◎

ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅡ（秋編留）	3年生	前	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターについて理解する。現状の経済経営を考えつつ、それら経済学者について理解する。	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターの考え方を理解する。現状の経済を過去から未来へ語る事ができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅡ（秋編留）	3年生	前	・就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに研究計画作成を行います。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。経済の専門用語を理解する。マルクスの資本主義批判について現代的視点から考える。	1 経済の動きについて過去から現在へ説明できる。2 マルクスの視点から経済・経営の動きを説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	ゼミナール2年目のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識の習得、②要点把握能力の向上、③プレゼンテーション能力の向上、④レポート作成能力の向上に本格的に取り組む。3年次後期の課題は、前期に引き続いて、文献購読中級編と位置づけ、経済・社会に関する見識を深めるため、各種文献を購読する。また、受講者の要望も踏まえ、必要に応じて、Excelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組む。	・これまで学んだ経済学の専門知識を生かして、日本経済の構造と課題について、説明できる。・これまで学んだ経済学の専門知識を生かして、日本財政の構造と課題について、説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートの書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3. CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析解釈できる。4. 既成概念や社会通念を批判的視点から再検証する柔軟な思考ができる。5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	卒論第1次草稿の発表者は、発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行います。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらいます。	卒論第1次草稿作成能力を習得できること。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	実務家教員として金融機関に管理職含め25年、税理士として13年(兼任)の経験を活かし理論と実践の融合を図る授業を展開する。会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業界には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な会計知識をテキスト、日経新聞、PBLなどから学んでいく。一方で、関連する資格取得(簿記やFPなど)の教育も行う。	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解することができる。2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用するかを説くことができる。4. レジュメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。5. 卒論のテーマを決め、その問題意識と目的を発表し、卒論執筆の準備ができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基礎型学習、サービスタラニングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および域学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、域学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅢ	3年生	後	経営管理、マーケティングなど企業活動についての基礎知識を養うとともに、対象とする業界や企業に関する問題や課題、その取り組みについて考察を行います。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身につけることを目標とします。本ゼミナールでは、企業経営において必要な会計と税金の関わりについて学び、税務会計の基礎知識を身につけるためにグループワークを通して研究・発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身につける。・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。・企業経営に必要な税務会計の基礎知識を身につける。	○	◎	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	金融基礎理論チーム/プライベート・ファイナンス・チーム(資格)および実践 学習チームに分けてゼミ活動を行う。・金融基礎チームはテキストおよび各 種資料(統計/ニュース、記事等)を通じて学ぶ。・資格取得チームは学習方 法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。・実践学習チーム は、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけても らいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロ ジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人 の学習計画と実行に役立てます。	・プライベート・ファイナンス・チームは、FPの全体像について理解したうえ で、各細分野の重点事項を深いレベルで理解できることを目的とする。・金 融基礎チームは、理論とデータ、世の中の現実から金融現象を観察する力 を養うこと、を目的とする。・資格取得チームは、就職活動開始を想定し、受 験および同合格を達成する。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・ マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	本演習では、ゼミナルⅡに引き続き、老舗企業を研究対象とする。長期に わたって存続してきた秘訣を探りつつ、企業にとって継続することの意味を 考える。ここでは、各自が対象とする企業を選んでその事例研究を行う。	老舗企業が存続できた要因を理解し、そこから各自の見方・考え方を形づく ることができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	本演習では、「日本企業の経営戦略分析レポート」の作成をおこないます。3 年次配当の本演習では、2年前期におこなった戦略の「簡易分析」をグ レードアップさせる形で日本の「今現在の」優良企業/話題の企業について経 営戦略、あるいは経営現象についての分析を行います。3年前期に 行う企業・経営研究は、3年後期に行われる「学生研究報告会」での発表を 目指します。また、3年後期はこれまでの学習成果を基に各自『卒業論文』 の作成準備・執筆に着手していきます。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイント を適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業の ケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレ ポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的 とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べる ことができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環 境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グ ローバル社会に対応できる素養を身に付けるために、幅広い内容の文献を 輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球 環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和 するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する 基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出席される最も基本的な知識を身に 付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対 して自分の意見が持てる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	企業の脱税、粉飾決算、偽装表示といった事件を新聞やニュースで見聞き したことがあると思いますが、なぜこのような違法行為を行う企業が後を絶た ないのでしょうか。本ゼミでは、その原因やメカニズムを決算書や裁判例を 基に分析し、会社法を中心とした企業法の観点から企業不祥事の防止につ いて考えていきます。ゼミナルⅡに引き続き、研究を進めていきます。	①ビジネスパーソンとして実践的な法律知識を学ぶことができる。②企業法 に位置づけられる各法律の考え方や会計との関連性を理解することができ る。③決算書より財務体質や法的問題点を読み取り問題解決力を身につけ ることができる。④プレゼンテーション能力を身につけることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	ゼミナルⅢでは、教員がスポーツビジネス関連の企業経営に長年携わっ てきた経験を生かして、皆さんが解決すべき課題のサポートができる外部企 業の人脈も紹介していきます。就活に先立つこの段階から人脈を広げず、 ゼミ活動をレベルアップさせます。社会人基礎力育成GP、大学発ビジネス プランコンテスト、地域創生イベントへの出場を最低1つ以上行い、学外 の人達と繋ぐことも楽しめるようになりましょう。そのために自分達の取組みを 発信する力を伸ばす必要があります。スポーツ×ビジネス、スポーツ×地域 をテーマに個人課題、グループ課題に取り組みながら社会人基礎力をグ ンガン高めていきましょう。	□ 成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない 課題を見つけることができる。□ それらの課題を解決する具体的な方法を立 案できる。□ 計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。□ 活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。□ 上記の内容をプ レゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションす ることができる。□ 自分達の取組みを学外へも発信できる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	2年生でのゼミ、前期のゼミⅡの学修内容、経験を生かし、活動を深掘りしな がら、レビューをしたり、報告・発表をする能力を高めていく。社会に出て も通用するコミュニケーション能力の向上に力を入れ、自分らしさの演出や発 信力のスキルアップをさらに図る。就職活動に向けては、エントリーシートの 記入、面接、グループワークなど、実践的な場をもうけ、入社だけでなく社 会に出た後も自分のスキルとなるように習得を図る。	・ゼミ内、ゼミ外のコミュニケーションを通じて、自分の視野や人脈を広げ、さ らに2年生との交流を通じて、企画・運営能力を共有できるようにする・ゼミ生 の自主的な判断で、就職活動に向けた模擬面接やグループワークが行える ようにする・イベントを自主的に企画し、様々な環境に配慮して運営できる力 を身につけられる・心を豊かにする時間を持ち、勉強やスポーツ以外の自分 の趣味を見つけられる・社会で通用するスピーチ力、文章力を身につけられ る	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それら に対する対策演習を行います。また、就職試験対策などの演習を実 施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもら います。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業 論文に向けた準備を始めて、資料収集の方法などを習得してもらいます。ま た、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就 職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける③卒業論文 に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ	3年生	後	自身の就職目標に必要な資格やスキルを身につけてもらいます。就職活動 で必須となる会社分析を行うため、会社四季報を読み取れるようになるよう 指導します。企業分析を行った結果、興味のある業界について発表をして いただきます。日商簿記検定やFP検定などの資格取得は積極的に行って いただきます。また、履歴書を使用した面接練習などの就職活動に向けたト レーニングも実施します。	1.資格取得ができるように、知識を身につける。2.会社四季報の内容を理解 し、企業の比較ができるようになる。3.個人で発表ができるような、プレゼ ンテーションスキルを身につける。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ(春編留/秋編 留)	3年生	後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現 象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけで なくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する 留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証し ながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるとい うことを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心 のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の 幅を広げることができる。	○	○	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ（春編留）	3年生	後	当ゼミナルは、経済学部への編入留学生が、①経済学の基礎知識の習得、②日本の経済・社会に関する見識の習得、③日本語資料の要点把握能力の向上、④日本語によるプレゼンテーション能力の向上、⑤日本語によるレポート作成能力の向上を2年間という短い期間の中で果たすことを目的とする。ゼミナルⅢ（編入）においては、「日本経済論」の文献購読と経済学における基礎理論の講義を通じて、①、②、③に重点的に取り組む。	・日本経済の歴史と現状について、自分の言葉で語るができる。・実質GDP、失業率、物価、経常収支の性質を説明することができる。・数値事例に即して、45度線モデルにおける政府支出拡大の具体的な効果を計算できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ（春編留／秋編留）	3年生	後	・就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに研究計画作成を行います。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身につける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ（春編留／秋編留）	3年生	後	「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した今日でも、留学生の皆さんは毎日のように「異文化」の存在強烈に意識させられる場面に遭遇するはずがです。本演習では、皆さん各人が日々体験する「日本という異文化」を、多角的かつ客観的に検証しながら、そもそも「異文化」とは何であるかという問題にアプローチしていきます。そして皆さんが、このことを自国の文化を外側から再認識するための契機としてほしいと考えています。	1. 自分のなかにすでに構築されていた日本のイメージと現実のギャップを客観化して文章にまとめることができる。2. 出身国と日本の文化的相違を認識し、相互理解のために有効な情報の発見と当該情報の文章による伝達ができる。3. 日本語に含まれる修辭的技法を理解し、行間にはめられた筆者(作者)の意図の読解ができる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅢ（秋編留）	3年生	後	「日本企業の経営戦略について知る・学ぶ」をテーマとした演習を行います。3年前期は、興味・関心のある企業を選んで簡易な企業レポートの作成に挑戦し、企業を理解しようとするとき、必ず注目すべき要点について学習します。3年後期は、『教科書(後日指定)』を主な題材としてレジュメ作成・購読・討議を行うことにより、企業分析の方法を理解すると共に、自分の主張を明確かつ論理的展開できるコミュニケーション能力の向上を目指します。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文作成の前段階として、企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する基礎レベルのレポートを作成することができる。・グループの中で計画的かつ協力的に目的とする課題遂行に取り組む、その中でも自分の意見・主張を積極的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターについて理解する。現状の経済経営を考えつつ、それら経済学者について理解する。	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターの考え方を理解する。現状の経済を過去から未来へ語るができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	社会人になった後も活かせるように、ゼミナル最終年次のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識、②要点把握能力、③プレゼンテーション能力、④レポート作成能力の確認を行う。特に、文献購読や例題取組を通じて、エンリシートや面接で求められる書類作成能力と自己紹介能力を鍛錬する。レポート作成に必要なExcelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組み、経済の現状について第三者に説明できるようにする。	・適切な表現と適切な構成で、目的に応じた200字程度の短文を作成することができる。・既存文献の要約をPowerPointプレゼンテーションシートにまとめることができる。・PowerPointを用いたプレゼンテーションを行うことができる。・Excelを用いて、目的に適ったグラフを作成できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	ゼミナルでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1.企業や業界の現状について理解できる。2.経営学の知識を応用することができる。3.レポートや卒論の書き方がわかる。4.文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との連関も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1.情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。2.情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。3.CM及びそこで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との連関のなかで分析し解釈できる。4.既成概念や社会通念を批判的視座から再検証する柔軟な思考ができる。5.情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	卒論第2次草稿の発表者は、発表原稿を作成し、それ以外の学生は発表を聞いて、その場で質問を行なう。発表者はその場で、質問者との間で質疑応答を行なってもらう。	卒論第2次草稿作成・完成できること。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルⅣ	4年生	前	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービストラニングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および地域連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、地域連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1.複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。2.営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。3.アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。4.地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べる事ができる。5.地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。6.大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○

ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本ゼミナールでは、日本の企業と経営について関連した演習課題を各自設定し、研究成果を発表することを通して、自ら課題を設定し解決することのできる能力の育成を目指します。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。興味を持った企業の創業理念や経営戦略等について調べ、その研究結果の発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。 ・経営学に関する基礎知識を身につける	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	・実践学習チームは、卒業論文の作成を行う。 ・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。 ・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。 ・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。 ・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます(実務経験)。 ・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。 ・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。 ・卒業論文を作成する。 ・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。 ・資格取得チームは、卒業後を想定し、受験および合格を果たす。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	・社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる。 ・コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。 ・ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに、随時、就職指導も行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を提示することができる。	◎	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、2年後期-3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。 ・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。 ・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に付けるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する。基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	本演習では、ゼミ研究・卒業研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行います。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	最終学年としてゼミナールを完成させていくことにします。大学入学後～ゼミに入る前まで、入ゼミ後～コロナ前まで、コロナ以降～現在まで、就職活動について、という4つの括りの中で個人的にまた自分以外のメンバーと絡んで、何のために、何を、どう、取り組んできたのか?についてまとめていきます。取り組んだ全体を100%として、スポーツビジネスに関することは何%を占めるのかについてジャッジを行い、その根拠についてまとめていきます。多くの経営者を育成してきた経験を生かして皆さんの努力が形(具体的な業績)として残るようなサポートを行います。	□主体的に取り組んだ案件の報告書を正確にまとめることができる。□レポートの作成に写真や図表を組み込んで視覚化できる。□まとめた資料を用いて分かりやすくプレゼンテーションできる。□後輩に仕事を引き継ぐことができる。□後輩の相談を担当することができる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	行政学の基本論点について、解説し議論していきます。現代行政国家における基本テーマを中心に扱います。公務員試験をはじめとした就職試験に必要なコミュニケーション能力を構築するためにグループディスカッション・トレーニング及び面接トレーニングを実施します。ゼミ生の関心に応じた卒業論文の作成指導を行う。	①文献を正確に理解し、他のゼミ生との議論の中で発展的に説明できるようにする。②広く現代社会の法的問題に関心を持ち、自分なりの考えを持ち、意見を述べるようになる。③基礎的なコミュニケーションスキルを習得し、公務員試験をはじめとした就職試験に対応できるようにする。④卒業論文に関するテーマサーベイを行い、研究テーマを設定し、研究計画を作成・実践できるようにする。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	ゼミナールⅢまでの活動をもとに、実際のビジネスの現場での即戦力に近づけるように、さらに知識・技能のレベルを上げていく。読み・書き・パソコンのそれぞれのスキルを点検し、自分の言葉で文章を書くこと、自分の言葉で資料を作成しわかりやすくプレゼンテーションを行う訓練を行う。	・大学4年間の総仕上げとして、自分ができること、できないことについて把握することができる。 ・これまでのゼミナール(Ⅰ～Ⅲ)で、自分が何に取り組んで来たかを分かり易く説明することができる。 ・就職活動に向かうにあたり、エントリーシートの記入や、面接に対して前向きに準備ができる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	ビジネスパーソンに必要なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージといわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大事なことです。社会人に必要な情報を集め、就職活動へと繋げていきましょう。またインプット・アウトプットの仕方について学びながら、経営分析についても学びます。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。4. 貸借対照表が分析できる。5. 損益計算書が分析できる。6. 論文が作成できる。	◎	◎	◎

ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ	4年生	前	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行います。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業研究に向けた研究計画書の作成方法と簡業研究の執筆を実践してもらいます。なお、資料収集の方法や分析方法などを、必要に応じて、個別指導していく予定です。	①就職試験に関する過去問などに解答できるだけの知識を身につける②就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする③就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける④社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。⑤卒業研究に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。⑥研究計画書の作成し、分析手法などを身につけた上で、卒業研究を執筆する。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターについて理解する。現状の経済経営を考えつつ、それら経済学者について理解する。	スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターの考え方を理解する。現状の経済を過去から未来へ語るができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	当ゼミナールは、経済学部への編入留学生が、①経済学の基礎知識の習得、②日本の経済・社会に関する見識の習得、③日本語資料の要点把握能力の向上、④日本語によるプレゼンテーション能力の向上、⑤日本語によるレポート作成能力の向上を2年間という短い期間の中で果たすことを目的とする。その第2年度(最終年度)として位置づけ、「経済財政白書」の購読、経済学における基礎理論の修得に取り組む。併せて、Excelを用いたグラフの作成を通じて、簡便な経済分析の手法を学ぶ。資料要約や報告のためのツールとして、PowerPointの具体的な使い方も学ぶ。	・既存文献の要約をPowerPointプレゼンテーションシートにまとめることができる。・PowerPointを用いて、日本語でのプレゼンテーションを行うことができる。・Excelを用いて、計算ができる。・Excelを用いて、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図を作成できる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートや卒業論文の書き方がわかる。4. 文章記述および発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートや卒業論文の書き方がわかる。4. 文章記述および発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留／秋編留）	4年生	前	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は生活だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立つて考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに卒論の作成を行う。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカルシンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、実践基礎力・研究マネジメント力を身につける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅣ（春編留）	4年生	前	本演習では、3年次後期からに自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、「卒業論文」、あるいは卒業研究レポートの作成が中心となる。卒業提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べるができる。	○	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅤ	4年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。経済学の専門用語を理解する。	経済の動きについて過去から未来へと考えを述べることができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅤ	4年生	後	社会人になった後も活かせるように、ゼミナール最終年次のテーマとして、①経済・社会に関する一般常識、②要点把握能力、③プレゼンテーション能力、④レポート作成能力の向上に取り組む。4年次後期は、前期に引き続いて、文献購読上級編と位置づける。特に、経済・社会に関する一般常識の再確認という観点から各種文献を購読する。また、受講者の要望も踏まえて、必要に応じて、Excelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組む。	・経済学部出身者としての見識を問われる場面を想定して、経済に詳しくない人に対して、日本経済の構造と課題を説明することができる。・経済学部出身者としての見識を問われる場面を想定して、財政に詳しくない人に対して、日本財政の構造と課題を説明することができる。	◎	○	○
ゼミ ナール 科 目 群	ゼミナールⅤ	4年生	後	ゼミナールでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートや卒業論文の書き方がわかる。4. 文章記述や発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	テーマは「メディアと広告」です。日常に溢れる膨大な情報の信憑性の判断と正確な理解、そしてそれらの有効活用法について、実際のニュース、広告、CM等を対象に、その内容や構造を、情報発信者・受信者双方の視点から批判的に検証します。とりわけ、広告ポスターやCMは、文学・絵画・映画等の芸術作品と同様に分析・解釈しながら、企業戦略や消費者動向との関連及び時代や社会との関連も考察します。また、情報の総合的読解力・分析力を基礎に、自ら情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションコンテンツ制作の実践もします。	1. 情報の背後に存在する伝達されなかった事実の演繹的理解ができる。 2. 情報を発信者の意図を含めて批判的に検証し客観的に理解できる。 3. CM及びここで用いられるキャッチコピーなどを、文学テキストの解釈と同様に、時代や社会との関連のなかで分析し解釈できる。 4. 既存概念や社会概念を批判的視点から再検証する柔軟な思考ができる。 5. 情報発信者として、合理的かつ効果的プレゼンテーションを意図的に構築・実践できる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	コメントと卒論修正を繰り返すことで、卒論を完成させる。	卒論の完成版を作成できること。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	本授業では、複式簿記の構造について理解する。加えて、その応用として問題基盤型学習、サービスマーケティングなどを取り入れて実践を図り、地域連携・地域貢献活動を行う。前者では、日商簿記検定試験合格などを手段として、複式簿記の構造について追究する。後者では、産学官連携活動および城学連携活動を実施する。産学官連携活動では地方公共団体や公共性・公益性が高い企業とともに、城学連携活動では地域住民や商店街などとともに調査・分析をおこない、その結果について発表する。	1. 複式簿記の構造について、具体的に説明することができる。 2. 営利企業の現状と課題について、経営分析の方法を用いて、解釈することができる。 3. アンケート調査をおこない、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。 4. 地域社会の現状と課題について、経営学の観点から、具体的に述べることができる。 5. 地域連携・地域貢献活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。 6. 大学での学びを社会貢献活動と関係づけることができる。	○	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	本ゼミナルでは、日本の企業と経営について関連した演習課題を各自設定し、研究成果を発表することを通して、自ら課題を設定し解決することのできる能力の育成を目指します。業界や企業の活動状況を捉えることにより、企業活動について学習するとともに、データを分析する方法、研究結果から経営状態を読み取る力を身に付けることを目標とします。興味を持った企業の創業理念や経営戦略等について調べ、その研究結果の発表を行います。	・問題認識、データ収集、データ分析、レポート作成、発表などのスキルを身に付ける。 ・グループワークやディスカッションに参加することで自分の意見を伝えることができる。 ・経営学に関する基礎知識を身に付ける	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	・卒業論文の作成を行う。 ・就職や進学等を考慮した論文または学習の指導を行う。 ・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身につけてもらいます。 ・資格取得チームは学習方法について検討を行ったあと、実践的な学習内容に入る。 ・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身につけてもらいます。 ・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。 ・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。 ・卒業論文を作成する。 ・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、PDCAを回せるようになる。 ・資格取得チームは目標資格を取得する。 ・大学4年間の学習に自信をつける。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	各自でライフデザインおよびキャリアデザインをイメージし、必要とされる能力を養う。コミュニケーション能力(聞く・話す)を高める。	・社会人基礎力を高め、自己PRにつなげることができる。 ・コミュニケーション能力に自信が持てるようになる。 ・ライフデザイン・キャリアデザインが明確になる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	本演習では、卒業論文またはゼミ論文作成のための指導とともに、随時、就職指導も行う。	研究の総括として、卒業論文またはゼミ論文を完成させる。その過程で、自らの見方・考え方を提示することができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	本演習では、2年後期-3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(1月)になるが、可能な限り12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。 ・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。 ・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べることができる。	◎	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	環境・産業を主体とするゼミに配属された学生としての自覚を持つ。地球環境とエネルギー問題の基礎を学ぶ。エコ検定に対応できる知識を持つ。グローバル社会に対応できる素養を身に着けるために、幅広い内容の文献を輪読する。	ISO14001環境マネジメント内部監査員に相応しい素養を身に付ける。地球環境問題を緩和するための政策の基礎を理解する。地球環境問題を緩和するための技術の基礎を理解する。環境に配慮する企業努力を理解する基礎的能力を身に付ける。エコ検定に出題される最も基本的な知識を身に付ける。世界の政治経済の動きを敏感に感じ取り環境の観点からそれに対して自分の意見が持てる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	本科目では、ゼミナルIVに引き続き、ゼミ研究・卒業研究の指導および卒業後の進路に対する相談指導を行うとともに、社会人としてのルールやマナーをアドバイスします。3年時の研究テーマをもとに研究を拡大深化させていき、ゼミ研究としてあるいは卒業研究として完成を目指します。また、随時進学・就活支援を行いますので、積極的に取り組んでいきましょう。	①論文の書き方を理解する。②ゼミ研究・卒業研究を完成させる。③プレゼンテーション能力を身につけることができる。④卒業後の進路を決定する。	◎	◎	◎

ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	ゼミナルVは、どのようなアウトカムを残すことができたか?という成果が求められます。教員は長年スポーツビジネスに関する企業経営に携わってきた経験を生かして、実際の企業ではどのように社員に対して関わっているのかという視点から、実践的なアドバイスをしながら、皆さんの成果実現をサポートします。「スポーツ×ビジネス」を主とした各自のテーマについて「まとめの制作」を行ってください。成果目標、目標達成のためにクリアしなければならない課題、それらの課題を解決する具体的な方法と実施した結果の報告、考察について計画的に取り組んでいきましょう。*テーマは個別面談により決定します。	□ 成果目標を明確に設定し、目標達成のためにクリアしなければならない課題を見つけることができる。□ それらの課題を解決する具体的な方法を立案できる。□ 計画的に行動を実践し、結果を出して報告することができる。□ 活動を振り返り、内容について考察を加えることができる。□ 上記の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、人前で分かりやすくプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	就職活動中の学生は、内定を目指してパフォーマンスを高めることに専念する。4年間の大学生活、3年間のゼミ活動の集大成として、報告書の仕上げとスポーツビジネスコースの縦のつながりを意識した引継ぎマニュアルの作成を行う。社会人としての第一歩を踏み出す準備を行う。	・ゼミの後輩にスポーツビジネス領域の活動を引き継ぐことができる。・自分のこれまでの大学生活、ゼミ活動をまとめることができる。・社会人としての生活の準備ができる。	○	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	ビジネスパーソンに必要なスキルとして簿記があります。ビジネスランゲージともいわれる会計情報を読み取るためにも、その基礎である簿記を学ぶことはとても大切なことです。社会人に必要な情報を集め、就職活動へと繋げていきましょう。またインプット・アウトプットの仕方について学びながら、経営分析についても学びます。	1. 簿記の基本を理解し、記帳することができる。2. 財務諸表に記載されている各項目が理解できる。3. 財務諸表が作成できる。4. 貸借対照表が分析できる。5. 損益計算書が分析できる。6. 論文が作成できる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	就職活動および公務員試験などに関する理解を深めるだけでなく、それらに対する対策演習を行っていきます。また、就職試験対策などの演習を実施することで、報告慣れするとともにプレゼンテーション能力を高めてもらいます。なお、必要に応じて、個別面談や履歴書等の指導を行います。卒業論文を執筆・報告してもらいます。また、各自の研究に応じた分析方法などを実践してその結果をまとめてもらいます。なお、必要に応じて、個別指導を行います。	①就職活動などで必要なコミュニケーション能力を実践できるようにする②就職活動の情報などを適切に分析・判断できる能力を身につける③社会の問題点を見出し、それに対する解決方法を提案できるだけでなく実践力を習得する。④卒業論文に向けた課題を探すとともに、資料収集の方法を習得する。⑤研究計画書の作成方法を習得し、分析手法などを身につけて実践する。⑥卒業論文を完成させるだけでなく、研究報告書を作成する能力を身につける。	○	○	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	卒業研究について参考文献及び参考資料の継続的収集、思考等を重ねることにより研究を進める。また、教員のこれまでの業務経験等を踏まえた質疑等を同時に行うことにより研究内容のより深い理解促進を行う。	卒業研究を進めることができる。	◎	◎	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV	4年生	後	自身の就職目標に必要な資格やスキルを身につけてもらいます。就職活動で必須となる会社分析を行うため、資格取得の簿記講義の中で貸借対照表、損益計算書を学習することで、会社四季報を読み取れるようになるよう指導します。日商簿記検定やFP検定などの資格取得は積極的に行っていただきます。また、履歴書を使用した面接練習などの就職活動に向けたトレーニングも実施します。	1. 資格取得ができるように、知識を身につける。2. 会社四季報の内容を理解し、企業の比較ができるようになる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV (春編留)	4年生	後	現代経済の流れを大きく理解する。経済学の専門用語を理解する。	経済の動きについて過去から未来へと考えを述べることができる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV (春編留)	4年生	後	経済学部への編入留学生向けゼミナルの最終学期のテーマとして、①経済学の基礎知識の習得、②日本の経済・社会に関する見識の習得、③日本語資料の要点把握能力の向上、④日本語によるプレゼンテーション能力の向上、⑤日本語によるレポート作成能力の向上に取り組む。大学院への進学と日本国内での就職の両方の可能性を考慮して、各種文献を購読する。また、受講者の要望も踏まえて、必要に応じて、Excelの実践的な利用やPowerPointによる資料作成・プレゼンテーションにも取り組む。	・日本経済の構造と課題について、日本語で口頭説明できる。・日本財政の構造と課題について、日本語で口頭説明できる。	◎	○	○
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV (春編留)	4年生	後	ゼミナルでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートや卒業論文の書き方がわかる。4. 文章記述および発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV (春編留)	4年生	後	ゼミナルでは、経営学とその応用した分野についての学習と研究をします。その手始めとして、産業界の現状や経営学理論から、自分にとって興味があるテーマを決めてもらいます。その際、関連の先行研究を学習することにより、問題意識(自分の問い)と研究の焦点を明確にします。また、各自の研究の焦点についての学習と研究を深めたのち、最終的には、卒業論文もしくはゼミ研究レポートを作成していきます。	1. 企業や業界の現状について理解できる。2. 経営学の知識を応用することができる。3. レポートや卒業論文の書き方がわかる。4. 文章記述および発表能力を高めることができる。	◎	◎	◎
ゼミ ナル科 目群	ゼミナルV (春編留/秋編留)	4年生	後	ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバル化という現象は、世界に大きな影響を及ぼし始めている。グローバル化は経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。本演習では母国を離れて生活する留学生の皆さんが、日本の経済や文化などを多角的かつ客観的に検証しながら、母国と比較して考えていく。	グローバル化が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解できる。また、グローバル化に対応できるため、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、外国語や外国の文化などにも関心を持ち、学習の幅を広げることができる。	○	○	◎

ゼミ ナール 科目 目群	ゼミナールⅤ(春編留)	4年生	後	・卒論作成、就職活動、進学準備はいずれもプロジェクトです。卒業後に社会人として必要になるスキルであるプロジェクト計画/実施/改善スキルを身に付けてもらいます。・大学院進学チームは、受験勉強ならびに卒論の作成を行う。・実践学習チームは、社会人として必要な実務スキル(企画立案/運営/発表)を身に付けてもらいます。・教員がコンサルティング会社およびデータ分析会社で培ったロジカル・シンキングや目的達成のためのプロジェクト管理技法などを、各人の学習計画と実行に役立てます。	・論理的な考えを構築し、文章や資料としてまとめることができる。・プレゼンテーションを効果的に行うことができる。・卒業論文を作成する。・大学院進学チームは、研究基礎力・研究マネジメント力を身に付ける。・実践学習チームは活動を通じてプロジェクト・マネジメントの基礎を習得し、のPDCAを回せるようになる。	○	◎	◎
ゼミ ナール 科目 目群	ゼミナールⅤ(春編留)	4年生	後	本演習では、3年次に自分の興味・関心のある企業あるいは特定の経営現象をテーマとして個人・グループでの研究を行ってきた。4年次では、就職活動および大学院進学などの進路に関する指導と並行して、3年後期から取り組んでいる「卒業論文」の作成が中心となる。卒論提出は4年後期の末(7月)になるが、可能な限り前年12月の学生研究報告会等での発表も目指してほしい。	・新聞・雑誌記事等に掲載された企業行動事例について、その理由・ポイントを適切に説明することができる。・卒業論文の準備・作成を通じて企業のケース研究、またはそれに基づく特定の企業行動に関する社会人レベルのレポートを作成することができる。・これまでの学習成果に基づいて、自分の意見・主張を卒業論文として、またプレゼンテーションの場において、論理的かつ主体的に述べるができる。	◎	○	◎
旧・基 幹科 目	会計学入門	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職合め約25年、税理士として13年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。企業活動の経済的側面について総合的な知識を得るためには最も優れた情報源は、企業の財務活動が生み出す会計情報である。本講義では、企業の財務会計が、どのように企業活動の実態を会計情報へと描き出すのか、また人々はその情報をどのように利用して企業の状況を知らばよいかを総合的に理解することを目的とする。とくに、財務諸表の作成プロセス、会計情報の作成プロセス、外貨建取引や連結決算、実際に公表された財務諸表より経営分析を行う方法、現実の企業データ等を活用して学修する。	1. 企業の財務会計が、どのようにして企業活動の実態を会計情報へと描き出すのかを説明できる。2. 会計情報をどのように利用して企業の状況を知らばよいかを説明できる。3. 財務諸表及び会計情報の作成プロセスを理解できる。4. 財務諸表より経営分析をすることができる。	◎	◎	◎
旧・開 連科 目	商業史	2年生	前	商業は、歴史上、古くから存在していた産業であるとともに、現代の経済においても大きな比重を占めている。しかしながら、こうした特徴をもつ商業の歴史的展開の過程を顧みる機会が少ない。本講義では、商業史を学ぶうえで前提となる商品・貨幣・信用などの概念を説明したのち、前近代から近代における日本の流通・金融・貿易などの分野に焦点をあてる。われわれの日常生活と密接なかわりをもつ商業を歴史的な観点から考える。	日本における商業の歴史的形成と発展過程について説明することができる。	◎	○	
旧・開 連科 目	ビジネス情報処理	2年生	後	高度情報化社会における社会人が修得しておくべきICT(情報通信技術)活用技能に焦点をあて、講義、演習を通じて知識の理解と技術の修得を図る。・インターネットの各種脅威を知り、情報資産を守るための対策について理解する。・Microsoft Wordの機能を活用した、見栄えのよい文書を作成する方法を修得する。・Microsoft Excelの機能を活用した、各種表計算、データ処理方法を修得する。	・インターネットの脅威から情報資産を守るための対策を講じることができる。・Microsoft Windowsの基本操作をマスターする。・Microsoft Wordを使って各種文書を作成できる。・Microsoft Excelを使って、計算式や関数を組み合わせた表計算を行うことができる。・Microsoft Excelで作成した表やグラフをMicrosoft Wordに取り込むことができる。	◎	◎	○
旧・開 連科 目	行政法	3年生	前	わが国の法律の大半を占める行政法の基礎ともいえる行政作用法を中心に学びます。1・2、7～15回は行政法の基本原理や行政作用法(行政活動をどのように法律でコントロールしていくのか)、3～6回は行政組織論(国や地方公共団体の行政はどのようなしくみになっているのか)、について解説していきます。担当教員は、これまで地方公共団体の行政委員会や審議会の専門委員を務めた経験があり、行政運営に関わってきた実務経験を交えながら講義を進めます。基本的な条文解釈・判例評釈・学説を積極的に理解し、基礎知識を事例に当てはめながら、論理的に考え答えを導くことのできる能力の習得を目指します。	①行政を身近な存在として理解できるようになると共に、内閣や地方公共団体の首長や議会の運営実態をより深く理解することを目標とする。②行政処分や行政上の強制手段といった権力的行政活動のみならず、行政契約・行政計画・行政指導のような非権力的行政活動をも理解し、行政活動の領域が拡大するとともに、行政法による適切なコントロールの手法についても、事例を通じて理解し自ら判断できるようになることを目標とする。③現代行政国家において、国民・住民と行政との法的関係について、広い視野をもって理解・判断できるようになることを目標とする。	○	◎	◎
旧・開 連科 目	租税論	3年生	前	当講義では、日本の税制について、税目ごとに、拠り所となる考え方、基本的な機能と具体的な算出の仕組みについて学ぶ。教科書を基本としつつ、必要に応じて配布する最新の制度改正についての資料や諸外国との比較に関する資料も利用しながら講義を進める。なお、関連科目である「財政学」とは共通の項目も取り扱うが、「財政学」ではミクロ経済学の考え方を応用した税制の経済効果の考察に重きを置くのに対して、当講義「租税制度」においては、各種税制の実際の制度内容について理解することを重視する。	・わが国の租税制度の内容や課題に関する新聞記事を理解できる。・当該記事の論点を整理するのに必要な見識を習得している。	◎	○	
旧・ コース 科目	財務会計論	2年生	前	実務家教員として金融機関に管理職合め約25年、税理士として13年(兼任)した経験を活かし理論と実践の融合した授業を展開する。本講義では、財務諸表論の初心者から中級者程度の知識を有する学生を対象として、財務会計の制度を分かり易く解説して財務諸表が読めるようになることを目的とする。財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)に対して当該企業の財政状態および経営成績に関する真実な情報を提供している。とりわけ、財務諸表は企業外部のさまざまな情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供することを使命としているので、理論と実務の両側面からアプローチし学修する。	1. 財務諸表である貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の機能とその関連性が理解できる。2. 財務諸表は国内の法律や欧米の会計基準の影響を受けるため、会計の理論とその制度を理解できる。3. 企業の財務諸表に必要な会計処理ができる。		◎	◎
旧・ コース 科目	環境産業マネジメント入門	2年生	前	企業に求められる社会的責任のうち、特に外部への環境に与える影響とその緩和策について概観する。いくつかの会社のCSR報告書を概読し、その実態を把握する。また国際標準化機構ISO14001の骨格を理解できるようにする。	企業のCSR報告書の構成と内容を理解できる。企業が取り組む環境保全の取り組みを理解する能力を身に付けることができる。企業のCSRを理解することにより我が国の環境行政の在り方と国際貢献について広い知見を持つことができる。	◎	◎	◎
旧・ コース 科目	ビジネス実務概論A	2年生	前	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用に向けたまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎

旧・ コース 科目	スポーツビジネス論	2年生	後	スポーツビジネスでは、実際のプロスポーツ球団の運営について学んでいきます。福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、ギラヴァンツ北九州、ライジング福岡等の在籍のプロ球団とは、ホーム戦におけるイベント企画でコラボレーションしたり、ファンクラブ増員企画を提案したりした経験を持つ教員が、今年度はまた新しいプロ球団とのネットワークを構築していきます。皆さんはリーグについてご存知ですか？本講義では、フットサルという競技の特性、歴史、リーグ構成、球団の成り立ち、運営の現状や課題について具体的に踏み込んで考える内容の濃い授業を目標とします。また、球団に対する企画案を作成して実際に提案することを目標とします。	□日本のプロスポーツリーグについて概要を説明できる。□北九州に存在するプロスポーツ球団について詳しく説明できる。□リーグ及びボルックパレットが抱える課題を抽出できる。□その課題を解決できる(かもしれない)企画を立案できる。□企画書を作成して球団に提案できる。	○	◎	○
旧・ コース 科目	ビジネスイングリッシュコミュニケーション	2年生	後	Students will practice speaking and listening to English in this class. Students will work in pairs and small groups. Students will do a number of mini-presentations.	Students will be able to have simple conversations in English. Students will be able to listen to and understand simple conversations in English. Students will be able to give short presentations in English.	○	○	○
旧・ コース 科目	ビジネス実務概論B	2年生	後	本講義では、ビジネスパーソンとして必要な資質や役割を理解し、ビジネスの現場で行動・活躍できる人材の育成を目標とする。ビジネス社会における実務、そのマネジメント、ビジネス社会を取り巻く環境、企業組織、ビジネスパーソンのキャリアなどについて理解を深め、ビジネス実務の基本から応用にいたるまで、幅広く修得することを目的とする。	・ビジネスパーソンとしての役割を理解し、ふさわしい立ち居振る舞いができる。 ・ビジネス実務を通して、自分の意見をエピソードを交えて発表することができる。 ・ビジネス実務を通して、チームの中でお互いに教え合うことができる。 ・ビジネス実務を通して得た思想を自分の人生に活かすことができる。	○	◎	◎
旧・ コース 科目	ビジネスコーチング論	3年生	前	・コーチング研修を企業等で行っている経験を活かし、実務に近い演習も行う。・企業経営者として、人材育成の実践経験を踏まえ、実例をあげながら授業を行う。・コーチ資格(CPCC)保持者として、高いクオリティのコーチング実演を行う。	・コーチングの基本的な概念を理解できる。・コーチングの基本的なスキルを使えるようになる。・コーチングを活かしたチーム運営ができる。	◎	◎	○
旧・ コース 科目	スポーツコーチング論	2年生	後	新たな時代のスポーツのコーチングは、単に専門的な技術を教えるだけでなく、とどまらず、人間としての態度や行動などが幅広く求められている。本講義では、日本スポーツ少年団の指導者育成の講師、障者の有無にかかわらず子どもから高齢者までのスポーツの指導に携わってきた経験を活かした授業を展開する。さらには、スポーツの意義や価値、社会に求められている背景と役割等を学びながら、スポーツコーチングの基本について理解を深めていく。	①スポーツコーチングとは何かを理解する。②コーチとして態度や行動がどうあるべきかを理解する。③実施の現場で、より良いコーチングができることを目指す。	○	◎	◎
旧・ コース 科目	プログラミング論	3年生	後	■授業内容は、変更されることがあります。初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。■コンピュータによる情報処理についての真の能力が求められる実力社会では、市販ソフトを活用する技術に加えて解決すべき問題について問題解析能力・アルゴリズム構成能力・プログラミング能力が求められる。本講義では、種々のプログラム言語の概要、問題分析とアルゴリズム全般について基礎的事項を学習したうえで、簡易プログラム言語Spread Sheetによる具体的な問題解決手法について学習する。	1. 任意の2つ以上のプログラム言語の概要について説明することができる。 2. 比較的簡単な問題の70%以上について、問題分析し、その解決アルゴリズムを構築することができる。3. 簡易プログラミング言語Spread Sheetを用いて比較的簡単な問題の60%以上を解決することができる。	○	◎	○
旧・ コース 科目	福祉・医療マネジメント	3年生	後	教員の実務経験としては、看護師として10年以上の経験と社会福祉士として在宅の福祉の分野で8年経験をしており、医療と福祉の両分野を実務しておりましたので、経験に基づいた講義を行います。医療と福祉のマネジメントに必要な社会保守制度の概要を理解できるように、わかりやすく解説いたします。また医療・福祉の分野では、医療知識や関係法規など専門的で高度な知識が求められます医療・福祉分野の特殊性を十分理解できる内容を教示いたします。医療福祉の業界は日々変化しており、医療福祉マネジメントでは医療福祉の現状と政策に加え、事例でのリアルな講義を行います。	・社会保障を学ぶことで、社会人として社会に目を向けた生き方、日本社会の持つ課題を知ることができる。・福祉の各分野を学ぶことで、日本社会実情や社会の動きを知ること、社会貢献することの意義を知ることができる。	◎	◎	◎
旧・ コース 科目	金融特講C	3年生	前	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
旧・ コース 科目	金融特講D	3年生	後	国家資格でもあり、金融機関などでも必要度の高まっているファイナンシャルプランナーについて学習する。FP基礎学習(3級程度)を修了している者を対象とする。FP相談現場を想定しながら、FP実務経験のある講師と様々な事例を学習する。また、FP2級の試験対策(学科編・実技編)も過去問を使い実施する。	ファイナンシャルプランニング技能士2級試験で合格するための知識、及び社会・経済情勢を踏まえたFP資格の活用方法を身に付けることを目標とする。	◎	◎	○
旧・ コース 科目	経営管理特講A	2年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点が変わる。2.経営学の主要理論が変わる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎
旧・ コース 科目	経営管理特講B	2年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスをいたします。	1.経営学の主要論点が変わる。2.経営学の主要理論が変わる。3.大学院受験に要求される翻訳能力が得られる。4.大学院受験に要求される論述能力が得られる。5.その他、大学院受験要領がわかる。	◎	◎	◎

旧・ コース 科目	経営管理特講C	3年生	前	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営戦略、経営管理領域の過去問を演習します。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明をした上、受講生の作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスを行います。	1.経営学の主要論点が見える。2.経営学の主要理論が見える。3.大学院受験に要求される翻訳能力が見える。4.大学院受験に要求される論述能力が見える。5.その他、大学院受験要領が見える。	◎	◎	◎
旧・ コース 科目	経営管理特講D	3年生	後	この講義は、大学院進学を目指している学生に対して、経営学理論を深く勉強してもらい、そのうえ、実際の問題(主要大学院の過去問や例題)を用いて、論述や和訳(英文の翻訳)を演習をしていきます。本年度は、経営組織、人的資源管理、生産管理、その他(イノベーション論)を主として演習を行います。また、小論文の書き方、翻訳時の注意点について説明した上、各自作成した小論文や翻訳の指導を行うほか、大学院受験のアドバイスを行います。	1.経営学の主要論点が見える。2.経営学の主要理論が見える。3.大学院受験に要求される翻訳能力が見える。4.大学院受験に要求される論述能力が見える。5.その他、大学院受験要領が見える。	◎	◎	◎